

世代交流
拡大号

世代を越えて集う「東京鰐陵会」を目指して

特集1「第32回 東京鰐陵会総会報告」 特集2「会員と共に」 特集3「母校は今」

東京鰐陵会・会長挨拶

人がつながる東京鰐陵会

東京鰐陵会会長 伊藤純一(43回生)



東京鰐陵会は、2025年11月29日(土)に第32回総会を無事執り行うことができました。会場の喜山倶楽部(東京都千代田区)には、開始時刻前から113名の方々が集い、2025年度を締めくくりました。ご参加いただいた皆様、誠にありがとうございました。2025年度まで数年間、にわたり、活動のほとんどを支えていただいた加藤友成前会長をはじめとする役員の皆様、改めて感謝の意を表します。

昨年度の活動を振り返りますと、若い世代を多く巻き込んだ「東京鰐陵交流会」は、多様化する社会の中で本会の今後を占う重要な試みであったと認識しています。2025年6月7日(土)に「テ

ング大ホール銀座ナイン店」で開催された会には、最年少となる26歳の方をはじめとする若手会員の方々が多く参加され、新しい世代の波を感じました。このような会では初めてとなる女性の参加も得て、42名という参加人数以上の盛り上がりを見せました。連綿と受け継がれてきた会報誌の制作も、私たちの大きな柱です。昨年で第23号となった「東京鰐陵」は「世代交流拡大号」として制作され、特集「母校は今」では石巻高校の創立百周年記念式典の報告など、活気に満ちた内容となりました。

さて、旧制石巻中学校時代から百周年を迎えた母校は、私たち卒業生の思い出の中にある姿のままではありません。当然ながら、社会情勢によって母校を取り巻く環境は刻々と変化しています。今年5月初旬の「石巻かほく」に、小中生数ともに減少という見出しの記事が掲載されました。

- 目次
1. 東京鰐陵会会長挨拶
 2. 鰐陵同窓会会長挨拶
 3. 石巻高等学校校長挨拶
 4. 特集1 第32回東京鰐陵会総会報告
 5. 特集2 会員と共に
特別寄稿1「のぼれる灯台16基 灯りのその先に」

6. 特別寄稿2 「消えた幻の百周年挨拶」
7. 特集3 母校は今 「鼎談」
会員からのお便り
8. アラカルト
「二度目の修学旅行」
「東京鰐陵 北辰寮第1回同窓会」
「48回生・65回生交流会報告」

副見出しは「石巻地方・26年度少子化が加速」というもので、石巻地方の新入児童数は1,033人とのことでした。これは2市1町(石巻市、東松島市、女川町)にある39の小学校の1年生の合計数です。東日本大震災前の2010年と比べると、約4割減となっています。故郷の人口減少の波は、様々な影響を及ぼしています。わが母校・石巻高校の来年度の定員数が削減されるという記事も、5月下旬の同紙に掲載されました。この故郷・石巻地方の現状や石巻高校の今後に対し、私たちは卒業生として何かできることがあるのではないかと、思うざるを得ない心境です。



応援・真龍氏

人間を育ててくれた故郷と母校へ、何らかの恩返しをしたという思いが強く湧き上がりました。このような状況だからこそ、東京鰐陵会の果たすべき役割がより一層重要になると考えております。また一方で、「振り返る」ことの楽しさ、とりわけ青年期を振り返る楽しさは格別であることにも気づかされました。「同窓会」の存在意義は、まさにそこにあるのかもしれない

と感じた次第です。今春帰省した際、本部同窓会や本年度総会の幹事学年代表の方とお会いし、話をする中で、同窓会という組織運営の難しさを改めて実感いたしました。地元であれば45歳になる彼らも集まりやすいのではないかなと思っておりましたが、「3・11」とコロナ禍の影響で、連絡が取れる卒業生が少なくなっ

代だからこそ、私たちは意識して絆を育んでいく必要があります。同窓生に巡り会うと心が華やき、会話が弾み、酒も自然と進むものです。会報誌の「会員からのお便りコーナー」が毎回盛況を呈しているのも、そう考えればごく自然なことと言えます。

る『世代を越えて集う「東京鰐陵会」を目指して』を掲げ、共学化21年目を迎える母校との連携も密にしながら、時代の多様化に対応する新たな挑戦と活動を進めてまいります。日頃より、898名の会員の方々、227名の運営資金援助協力者の方々をはじめとする多くの皆様に温かく支えられていることに、心より感謝申し上げます。会員の皆様、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

名を下回ったことには衝撃を受けました。原因は様々でしょうが、一番はこの地域の人口減少が最大の要因です。東京鰐陵会の皆さんは今の石巻の人口をご存知でしょうか。今年に入り13万人を切りました。25年の国勢調査では5年前と比較して11,000人以上減少しており、県内最多です。当然ながら小中の子供達の数も減っており、東日本大震災前の2010年と比べますと児童がおよそ4割、生徒は3割少なくなっています。

来年度から1クラス減の5クラス、定員200名になり、教員も減ります。文武両面で質が落ちることのないように同窓会としても皆さんのご協力を得ながら、精一杯の応援をしていきたいと考えておりますので今後とも宜しくお願い申し上げます。

今の石巻と母校

鰐陵同窓会会長 青木利光(43回生)



伊藤純一会長はじめ東京鰐陵会の皆様には平素より本部事業に格段のご理解とご支援を賜りまして心より御礼を申し上げます。また、益々ご健勝にてご活躍のことと拝察お慶び申し上げます。

4月8日は本年度の母校の入学式でした。一か月前の卒業式では駐車するのに四苦

八苦、遅刻しそうになったので早めに家を出ました。快晴、気持ちのいい青空です。校門を抜けると中庭に見事に咲いた桜が見えます。鰐陵桜です。開校以来の桜ですから、樹齢はゆうに百年を超えます。季節はずれの暖かさが三日程続いたおかげで4月上旬なのに満開です。毎年、満開のこの桜をみると元気が出ます。ご存じの方もいらつしやると思います。この桜が今も咲き続けているのは若生敏郎氏(21回生)のおかげです。若生氏は樹木医の資格を持つてお

り、弱って枯れそうだった鰐陵校の治療工事を施し、見事に蘇生させたのです。控室で難波校長先生から今年の新生(通算101回生)が212名であることを聞きました。定員割れではありませんが何故かほつとしました。令和7年の新生が188名、一年前の令和6年は186名とひどく定員割れをしていたためです。新たな百年に向けてのスタートの年は今までにない定員割れでした。当時の須田校長先生(55回生)はじめ、学校関係者が生徒確保のため、精一杯頑張ってくれたのですが、二年続けて200

平成以降は必ずしもそうではないようです。スポーツだけでなく勉学でも初めから私立を希望する子供達が増え、主に仙台方面へ通うようになりました。ひと昔前より通いやすくなったのも一因です。さらに高校の授業料無償化の影響も今後は出て来ると思われます。公立高校には厳しい環境になる気がします。母校も例外ではありません。さらに

結びに東京鰐陵会の益々のご発展と同窓各位の益々のご健勝とご活躍を祈念致しましてご挨拶と致します。

変化の時代にこそ、鰐陵の使命を

宮城県石巻高等学校 校長 難波智昭（57回生）



東京鰐陵会の皆様におかれましては、日頃より本校の教育活動に対し、深いご理解と温かいご支援を賜り、心より御礼申し上げます。また、昨年は東京鰐陵会総会にお招きいただき、誠にありがとうございました。母校を思い、鰐陵の未来に大きな期待を寄せてくださる諸先輩方の熱い思いに触れ、私自身、校長としての責任と使命の重さをあらためて胸に刻んだところです。

さて、本校は本年度、新入生212名を迎え、全校生徒575名、教職員53名で新たなスタートを切りました。「真実・自律・友愛」の校訓のもと、「自ら進運を開拓すべし」を合言葉に、生徒一人ひとりの可能性を信じ、教職員一丸となって教育活動を進めております。

私は日頃から生徒たちに、「将来どのような人間になりたいのか」「どのような人生を歩み、社会にどのような貢献したいのか」を問いかけています。その理想を実現するために、今どのような生活を送り、何を大切にして高校時代を過ごすのか――。自ら考え、自ら選び、自ら行動する三年間であってほしいと願っています。

今年三月に卒業した生徒たちも、それぞれの志を胸に、新たな一歩を踏み出しました。一橋大学法学部、東北大学医学部（保健学科）への現役合格者に加え、過年度生では京都大学への合格者も誕生しました。国公立大学には学年の約四割にあたる84名が合格し、私立大学においても、早稲田大学・慶應義塾大学・中央大学・法政大学、関西方面では関西大学・関西学院大学・同志社大学・立命館大学といった難関大学へ多くの生徒が進学しています。まさに、鰐陵で培った力を次の舞台で発揮

しようとする姿であり、今後の活躍が大いに期待されます。

一方で、少子化の進行は本校にとっても大きな課題です。本年度の入試倍率は0.88倍となりましたが、決して鰐陵の魅力や価値が失われた結果ではありません。石巻圏域全体の人口減少という厳しい現実の中で、「鰐陵で三年間を本気で挑戦する」という覚悟をもつ中学生が減っていることが要因だと受け止めています。

そのような状況下にあっても、覚悟をもって入学してきた生徒たちは、確かな成果を挙げています。昨夏、中国地方で開催されたインターハイには、ボート部、ヨット部、ウエイトリフティング部が出場し、全国の舞台で堂々と戦いました。また、香川県で開催された全国高等学校総合文化祭には、将棋部と新聞部が出場し、全国の仲間と切磋琢磨する貴重な経験を積みました。国スポや東北大会などでも多くの生徒が躍動しており、文武両道の鰐陵精神が確かに次代へと受け継がれていることを実感しています。

東日本大震災以降、石巻圏

域の地域社会は大きく変化しました。だからこそ本校は、「地域とともにある高校」「地域の期待を背負う進学拠点校」として、これまでの伝統を礎に、「次代を拓く石巻高等学校」「新・鰐陵」を創造していかなければなりません。伝統とは、伝承とは違い革新の連続であり、今ここで学ぶ生徒一人ひとりが、日々の学校生活に真剣に向き合い、積み重ねていく中で形づくられていくものであると思っています。

変化が激しく、先行きが見通しにくい「VUCAの時代」を生き抜くためには、知識や技能だけでなく、困難に立ち向かう強い心と健やかな体が不可欠です。学業、部活動、学校行事を通して「強健なる心身」を育むことが、鰐陵の果たすべき使命である、私たちは確信しています。

最後に、東京鰐陵会の皆様にお願いがございます。本年度、本校では進路指導の一環として、同窓会のお力をお借りしながら、（仮称）「鰐陵・難関大学プロジェクト」を立ち上げたいと考えております。関東圏の難関大学を志望する

在校生が実際に大学を訪れ、現在大学で学んでいる卒業生やOB・OGの皆様から直接お話を伺うことで、進路への意識と志を一層高める取り組みです。実現にあたっては、昼食会場の確保や当日のアテンドなど、皆様にご相談を申し上げる場面もあろうかと存じます。まだまだ越えるべき課題はありますが、必ず実現させたいとの強い思いで準備を進めてまいります。どうか本プロジェクトの趣旨にご理解を賜り、温かいご支援・ご協力をお願い申し上げます。

結びになりますが、東京鰐陵会の皆様のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げますとともに、今後とも本校の教育活動への変わらぬご厚誼をお願い申し上げ、ご挨拶いたします。



特集1 第32回 東京鰐陵会総会報告

令和七年度は「交流拡大の年」と位置づけ会員相互のつながりをさらに深める活動を進めてまいりました。また、現役員体制の最終年でもありました。

この節目の第32回東京鰐陵会総会を113名の参加を得て、2025年11月29日に、喜山倶楽部平安の間で実施することができました。

総会は、24回生の大先輩から若い世代まで幅広い世代が集い、初参加の方々も増えるなど、「世代を超えた東京鰐陵会」の広がりを実感する機会となりました。

総会第一部 総会決議

1. 開会

◎開会の辞

瀬川徹副会長（40回生）

◎校歌斉唱

指揮 和泉耕二氏（38回生）

◎黙祷

2. 挨拶 加藤友成会長（40回生）

3. 議事 議長 平塚善伸副会長（40回生）

◎活動経過報告及び役員改選 加藤友成会長（40回生）



会場風景

◎第1号議案 2025年度事業報告 会務・活動報告 伊藤純一事務局長（43回生）

（1）定例会議
（2）会報誌（23号）発行
（3）「東京鰐陵交流会」（6月7日）の開催
（新規施策）

（4）石巻高校創立百周年記念活動

◎第2号議案 第3号議案

2025年度収支報告及び監査報告 2024年10月1日～2025年9月30日 新田輝夫事務局次長（会計担当）（42回生）、

（5）役員改選及び会則改訂

★拍手で決議事項が承認されました。

新会長及び新副会長を代表して新会長伊藤純一（43回生）が挨拶をしました。

4. 閉会の辞 瀬川徹副会長（40回生）

総会第二部 講演会

講師・芝浦工業大学教授 谷口大造先生（55回生）「石巻のまちづくりの新たな可能性」

谷口先生は、まちづくりに必要な要素を組み合わせ、新しい価値を生み出す発想が重要であると指摘されました。例えば「ランドリー＋カフェ」のように、異なる機能を掛け合わせることで新たな魅力が生まれる考え方は、地域再生にも応用できるとのことでした。

震災後の石巻は、インフラ整備や土地のかさ上げが進み、安全性や利便性は向上した一方で、空き地の増加や街の連続性が失われつつある現状が紹介されました。また、空き地や未利用地は「課題」ではなく、新しい活動の場となる「可能性」であるとし、市民農園や交流拠点などへの活用例が示されました。

特に中高生など若い世代の「居場所」が不足していることは大きな課題であり、地域への愛着形成にも深く関わりと述べられました。

さらに、防潮堤や公共空間なども、防災機能に加えて展望・交流・滞在の場として活用できる可能性があり、「安全のための施設」から「人が集う場所」へ転換する視点が重要であると提言されました。

最後に、まちづくりの本質は施設整備ではなく、「人と人」「人と場所」「活動と地域」の関係性を再び結び直すことにあると強調されました。地域の未来は、そこに関わる人材によって形づくられる。その力強いメッセージが印象的な講演となりました。

総会第三部 懇親会

1. 開会 司会

佐々木清さん（46回生）

2. 来賓挨拶

（1）鰐陵同窓会 会長 青木利光様（43回生）

東京鰐陵会の活動に対する敬意と感謝のお言葉に加え、今後さらに交流が深まり、若い世代の参加が広がることへの期待が述べられました。

（2）宮城県石巻高等学校 校長 難波智昭様（57回生）

第32回総会開催への祝意と創立100周年事業への支援に対する御礼の後、母校の現況についてご報告がありました。現在生徒数588名、新入生188名を迎え、「自立・友愛」の精神のもと、生徒一人ひとりが自らの将来と社会貢献を考える教育が進められています。

一方で、少子化による生徒数減少や部活動維持などの課題にも触れられ、今後文武両道の教育を継続し、卒業生・同窓会の支援をお願いしたいとお話がありました。

3. 米寿・喜寿会員への記念品贈呈

高齢の米寿・喜寿会員への記念品贈呈では、米寿1名、喜寿4名の皆様が祝福を受けられました。代表の成澤良さんからは、健康で再びこの場に集える喜びと、今後同窓会活動に参加していきたいとの心温まる

東京鰐陵 No.24 ● 特集1 第32回 東京鰐陵会総会

4

ご挨拶をいただきました。

4. 乾杯

乾杯のご発声は、最長老会員の高山研造さん（24回生）にお願いました。学生時代の思い出や日々の健康管理の大切さに触れられ「自分の健康は自分で守る」との力強いお言葉とともに、会のさらなる発展を祈念して乾杯が行われました。

5. 当番幹事挨拶

当番幹事を務められた森田弘志さん（46回生）からは、同期生の協力への感謝と、無事に総会運営を終えたことへの御礼が述べられました。

6. 若手参加者紹介・挨拶

若手参加者紹介では、62回生の新田浩さん、松林尚志さんが登壇され、近況報告と今後の同窓会活動への期待を語っていただきました。若い世代の参加が着実に広がっていることを実感する場面となりました。

7. 応援歌・鰐陵歌斉唱

懇親会の締めくくりには、真籠竜大さん（90回生）の指揮のもと、応援歌・鰐陵歌を全員で斉唱し、会場は

大いに盛り上がりしました。

8. 当番幹事引継ぎ

その後、当番幹事の引継ぎが行われ、46回生から次年度担当の48回生へとバトンが渡されました。48回生の代表からは、来年の総会成功へ向けた力強い決意が述べられました。

9. 中締め

最後に、参与 丹野静也さん（37回生）の中締めに、幅広い世代が集う本会の意義を再確認するとともに、今後は女性や若手会員のさらなる参加を期待し、会の発展を祈念して盛会のうちに閉会となりました。

当番回生として

第32回東京鰐陵会総会を振り返って 森田弘志

令和7年11月29日に開催された「第32回東京鰐陵会総会」において、当番回生を務めさせて頂いた46回生を代表して寄稿いたします。

私は父の仕事の関係で、高校受験時に矢本町に転居することになり、埼玉の中学校から石巻高校を受験しました。卒業後は、またまた父の仕事の関係で埼玉に戻りましたので、

同級生とは、ほぼ在学中の3年間のみの付き合いで、卒業後もしばらく疎遠となっておりました。しかし、同級生とは有り難いもので、何時の頃からか、同期会開催の連絡をいただき、都合のつく限り参加してまいりました。因みに46回生は2年に一度の全体の同期会に加え、不定期ではありますが、関東在住者の同期会を開催しています。

東京鰐陵会については東日本大震災の際に募金をさせて頂いたことはありましたが、総会等に参加したことはありませんでした。確か令和6年の春先だったと思いますが、当時の加藤会長からお電話をいただき、次期当番回生としての総会参加と理事就任を打診されました。今まで同窓会等については受け身で終始していた私にとっては青天の霹靂でしたが、これも何かの縁かと思

い直し、同級生の動向に詳しい佐々木清さんと連絡を取り、まずは2人で運営委員会や理事会・総会に出席することになりました。第31回総会では、当番回生の45回生の皆さんが大勢参加されており、正直これは大変だと思いましたが、壇上で、先輩から熱い引き継ぎを受け、翌年の総会では、何とか当番回生として恥ずかしいようにしなければならぬと覚悟を決めたことを覚えて

います。

令和7年に入り、関東在住者の同期会を開催し、協力を呼び掛け、さらに佐々木清さんの個別の声掛けや、武田英則さんによるラインを活用した周知などにより、総会には8名の有志に参加いただきました。佐々木清さんは懇親会の司会を務め、佐藤賢一さん、佐藤浩二さん、三浦俊之さん、三浦義彦さん、田中昭夫さん、武田英則さんには事前準備や会場案内等で尽力いただき、何とか当番回生の任務を果たすことができました。本来もう少し多くの同級生の参加を予定しておりましたが、事情により、止む無く不参加となった方も多々ありました。参加いただいた同級生には感謝しかありませんが、皆さん、久しぶりの先輩・後輩との交流を楽しまれたようでした。私にとっても、終戦後の困難な時代をご存じの大先輩から令和7年卒業の新OBまでという、多様な世代が一堂に会する会合は、昨今あまり経験がなく、貴重な

時間となりました。このように「鰐陵」の名のもとに先輩・後輩が集い、上下の隔てなく交流できることは東京鰐陵会の大きな魅力ではないかと思

います。今は理事や運営委員として東京鰐陵会の運営に参画しています。友人等に東京鰐陵会の話をする時、頑張っていると驚かれますので、東京鰐陵会の活動自体は結構活発なのだと思います。若い人や女性OGの参加など課題もありますが、我々卒業生のみならず、現役の石高生のためにも同窓会という組織は必要だと思いますので、今後も微力ながら東京鰐陵会及び石巻高校の発展に寄与していけたらと思っております。



46回生当番幹事

会場風景写真



挨拶：加藤会長



青木会長



瀬川副会長



熊谷監事



平塚議長



石巻高校校長



講演：谷口教授



締め挨拶：丹野参与



乾杯



担当幹事



幹事引継ぎ



来賓・役員



校歌斉唱



米寿喜寿お祝い

会場風景写真



32・33・34・36回生



27・29・30・31回生



24・26・28回生



38・50回生



38・42回生



37・39回生



41回生



40・49・55回生



40・49・55回生



45・62回生



44・56・57回生



43・48回生



64・67・70・71・89・90・97回生



46回生



45・62・65回生

特集2 会員と共に 特別寄稿

のぼれる灯台16基 灯りのその先に

阿部盛行(38回生)

はじめに

還暦を過ぎる頃から旅行に拍車がかかった。船上からの赤白に塗り分けられた稚内灯台(別名ノシヤップ岬灯台高さ43m)は目にも鮮やかに映る。ここは映画「喜びも悲しみも幾歳月」のロケ地になった所である。

JR時刻表を調べるのは太平洋を望む学窓を巢立って以来。大海原と対峙し凜と立つ灯台は男のロマンを駆り立てる。美空ひばりの歌碑がある塩屋崎灯台(明治32年初点灯高さ27m)は昭和13年福島北方沖地震が致命傷となりレナ造が大破し現在の鉄筋コンクリートに建て替えられた。「みだれ髪」の歌が流れる碑からはキツイ上り坂20分。ここは身内の法事帰りに立ち寄り当時賑わっていたハワイアンセンターに宿泊。手元にある当時のパンフレットには「のぼれる灯台15基」とある。スタンプ帳でのラリーが始ま

る前で異なるスタンプが押しである。令和8年梅雨入り前にスタンプを貰いに日帰りで行く予定。いわき駅からはバスの便数も多く楽な行程だ。私がスタンプ帳(寺社の御朱印帳の様な物)でのラリーを知ったのは、当時赤字鉄道路線で全国的话题となった銚子鉄道で行く犬吠埼灯台(明治7年初点灯レンガ造高さ31m)。私が上りディーゼル列車で通学した頃と似た様な旧式のボロ。駅からは平坦な道が続く徒歩10分の距離。世界灯台100選に選ばれるスマートな貴公子の風格。夜ホテルから見る灯光は正に絶景。ここは根室半島納沙布岬灯台より日本で一番早く初日の出が見られる所。ついでに女川駅前商店街の大通りからは真正面に湾から昇る初日の出を見る事ができる。又灯台のすぐ傍に駐車場があり隣は大きな土産センターと利便性が高い。特に勧めなのが銚子メロ

ン。糖度16度以上と濃厚な甘さの絶品だが生産量が少なく他所では入手し難い。兎に角一歩は踏み出した。これから15基をガンバリ。

この年令和6年秋に近場を探したら東武電鉄・京浜急行と乗り継いで観音埼灯台(明治2年初点灯コンクリート造高さ19m)があった。日本最初の洋式灯台で道筋の磯はキレイでキャンプ施設もあり家族で楽しめる。一帯は県立公園にも指定されている。キツイ坂を登ると係員から「先程迄強風の為閉鎖。風いたので解除したばかりです」とラッキーだった。上の展望では矢張風が強く帽子を深くかぶり直した。前方には房総半島、左手側は横浜港、それを右手に追って行くと東京湾を見通せる。眼下に浦賀水道が他の灯台にはない景観である。

JR「大人の休日クラブ」会員の為石巻で職を得ている娘に行くにも便利だ。毎年6月閑散期に東北乗り放題キャンペーンを行っている。2泊3日+1日の計画を練った。下北半島にある尻屋埼灯台(明治9年初点灯レンガ造高さ

33m)へは下北駅から路線バスがない。駅前でレンタカーを借り小雨の中を走らせること一時間半。薄ら日も射す様になったが見回せば何もない。ポツンと灯台。肌寒い中案内所に向かうと「本日修理中の為参観出来ません」の貼り紙。一周した津軽海峡をはさむ北海道恵山岬灯台は見えない。ガッカリ。すると地元観光人が案内所に人が見えたと教えてくれ内を窺うと係員が居た。参観しなくとも参観料の支払いでスタンプは押すとの事。のぼらずのスタンプはここだけで、英国人技師R・H・ブランドンが日本で最後に設計した灯台。岬には寒立馬^{カンダチウマ}と呼ばれる農耕馬が放牧され記念写真に花を添えてくれた。

帰路は恐山に寄る下北駅に戻ると「青森地方集中豪雨の下北線全線不通。復旧の見通しなし。代替輸送なし」の又も貼り紙。旅行者一同困っている。下北バス運行の情報。二時間余り乗車で野辺地駅に到着したがバスは銚子電鉄を上回るボロさ。真横乗車口は故障でビニールひもで仕切れ座席の下から道路が丸見え。

ソフトボール大の穴が空き降車ボタンもテープ止め。やつとの思いで八戸到着。明日も早い。

新幹線で盛岡經由秋田へ。男鹿半島入道埼灯台(明治31年初点灯コンクリート造高さ28m)は船川駅からコミュニティバスとデマンドバスを乗り継いで行く。北緯40度00分には世界主要都市マドリッド・アンカラ・北京・ニューヨークが並ぶ。この記念碑の前に高さ2m位厚さ30cm程の中心がくり抜かれた石板が直列に5〜6コ置いてあり200m先の石板まで見通せる。これが北緯40度のラインであるのが分かる。白黒に塗り分けた灯台からは波穏やかな日本海が一望できた。新婚旅行以来の男鹿温泉は特別に鯛の旨い季節でもあった。

一旦帰宅し、館山駅からバスで野島埼灯台(明治2年初点灯コンクリート造高さ29m)へ。八角形の灯台は関東大震災等で壊れ幾度も修理をした三番目に古いもの。周辺は飲食店も多く賑わいはのぼれる灯台で一番だ。

お盆過ぎ御前埼灯台(明治7年初点灯レンガ造高さ22

m)へ。新幹線で静岡駅を降りバスを乗り継ぎ炎天下の中徒歩15分の距離。喉もカラカラ、ビールで美味海鮮丼をガブリと考えていたら平日の為に飲食店休業。乗り継ぎの停留所付近も同じ。トイレに困った。恐る恐る尋ねた信用金庫は応対も良く有難かった。日帰り可能な一番お勧めの灯台だ。

飛行機や船でしか行けない灯台がある。沖縄残波岬灯台(昭和49年初点灯鉄筋コンクリート造高さ31m)は令和7年に。羽田空港では飛行機の遅延で搭乗口が変更し空港の端から端まで走った。買物でアナウンスを聞きそびれた為で出発5分前だった。二回目のツアーコースで灯台を巡るが参観時間が足りない。添乗員に相談し逆回りを頼んだ。駐車場から目と鼻の先の灯台はヒロツとして弱々しい。道筋には多くの観光客が海を凝視している。ザトウ鯨のお出ましを待っているのだ。

なしでは乗車出来ない。すぐ様始発電車に。2泊3日数少ないコースでのツアーで宮崎へ。都井岬灯台(昭和4年初点灯コンクリート造高さ15m)は海拔245mの断崖に立つ白亜の美しい灯台。駐車場から遠々と坂が続く様で滞在時間内では無理と思われる為添乗員に相談し迎車タクシーを依頼。見上げる長い階段の上に立つ灯台からは種子島や屋久島が見えると言う。又ここにも背の低い在来馬(ミサキ馬)が多く放牧されているがタッチはご法度。残暑厳しき頃だった。11月は孫の結婚式で宮古島へ。3ヶ月以上前の直行便は予約6名を取るが大変だ。

出雲日御碕灯台(明治36年初点灯レンガ造高さ44m)は近くで見上げても灯頂が見えない日本一の高さ。前日から微熱を我慢して土足厳禁の灯内、鉄製階段を素足で登る。バス便の良い帰路は4度目の出雲大社詣。境内でグループ参拝の一行とすれ違った。「ああー」と思い追いかけてカメラを向けた。その方と目線が合った瞬間、とっさに手を降ろし敬意の一礼。あの平成の大横綱白鵬関。松江近辺はNHK朝ドラの影響で冬場にもかかわらず多くの観光客でこった返した。「疲れたもういいよ。終了」

令和8年早咲きの熱海桜が満開の頃に、2度行く羽目になった初島灯台(昭和34年初点灯)へ。ツアー添乗員が車内で新造船に乗ると案内していたがペンキを塗り替えた代物であるのがすぐ分かった。スタンブを押してもらったためだったが海は風も強く波高くてこれから先の灯台巡りを暗示するようだった。

発売でしかもJR運賃改定月。駅には当日混乱解消のため駅員が待機していた。お陰で経由駅の多い乗車券が楽に買えしかも他社JRは現状運賃、グー! 3度目の始発に乗り串本駅に降り立ったのは午後1時。コミュニティバスで潮岬灯台(明治6年初点灯石造高さ23m)へ。観光周遊バス乗継ぎのため20分で参観を終了し紀伊大島へ寄り道。樫野埼灯台(明治3年初点灯)も登れる。我が国最古の石造である。ここはエルトゥールル号遭難の地でトルコ資料館等関連の施設が多い。奇岩立並ぶ海金剛からの灯台は一番の絶景である。

灯台 尻屋崎・犬吠崎・御前
崎・出雲日御崎・角島登録
有形文化財指定灯台野島崎・
大王崎・安乗崎・都井岬全

消えた幻の百周年挨拶 ある鰐陵OBの話

馬場珀虎(97年生)



100周年式典の挨拶

日頃より、東京鰐陵会の先輩方には大変お世話になっておりますことに心から感謝を申し上げます。

私は石高100周年の年に生徒会長を務めさせていただいた97回生の馬場珀虎でございます。

まずもって、在学中は100周年記念事業等で多大なご支援を賜りましたことに厚く御礼を申し上げます。昨年の4月に大学進学に伴い、愛する故郷・石巻を離れて、埼玉県へまいりましたので、入会いたしました。どうぞよろしく願いました。

さて、私と東京鰐陵会との

国には重要文化財・登録有形文化財(金華山灯台舎)は併せて40余基ある。

初めての出会いは、私が高校1年生の冬に遡ります。

当時、私は応援団の副団長をしておりまして。翌年に創立100周年を控えた大事な年でありましたので、応援団長の畠山煌世君(同期・97回生)と、備品の新調をすることにしました。とくに備品に

おいては、当時使っていた片面が破れている太鼓や一部が色あせ破損した団旗を新調することといたしました。そこで、学校に予算を確認したところ、応援団予算は、年間2万円しかありませんでした。年間2万円では何もできません。学校側からの回答は、難しいということでした。以上を踏まえ団内で検討したところ、太鼓は別のものを吹奏楽部から借用し、団旗を新たに製作することといたしました。そこで、当時私は対外的な交

渉の役目を任ざれておりましてので鰐陵OBの先輩と相談し、東京鰐陵会へ寄付のお願いをすることにいたしました。その後、色々あり、金銭の寄付の話は無くなってしまいました。知り合いから紹介していただいた、OBが経営する染工場が団旗を製作し、匿名で寄付があつたお金を使い、無事、新調した団旗は、100周年記念式典の壇上で華々しく披露されました。これが私と東京鰐陵会の初めての出会いであります。

その一件から約1年後に私は、生徒会長に就任いたしました。

前述の通り、私は石高100年目の生徒会長を仰せつかっておりまして、記念式典において、在校生を代表してのご挨拶の機会を賜りました。式典では、ありがたいことに多くのOBの先輩方



生徒会長として生徒たちと懇談

からお褒めの言葉をいただき、大変恐縮したのを覚えております。(挨拶文は昨年の東京鰐陵会報の二階堂先生の文章内に記載されていますので、そちらをご参照ください。)

実は、原稿を書き始めた当初は全く別の内容を話す予定でありました。しかしながら、それについては、見解の分かれる内容であり式典には相応しくないとの教員側の判断により、内容を改変することになったのですが、私はどうしても石高の歴史を顧みた時にこのことは話しておきたかったと今でも思っております。

それは、『ある鰐陵OBの陸軍大尉の話』であります。1915(大正4)年に旧稲井村(現石巻市稲井)に生まれた、後藤東一郎氏は昭和8年に旧制石巻中学校を首席で卒業し陸軍士官学校に入学しました。鰐陵5回生ということになります。陸軍士官学校本科在籍中には、二・二六事件も経験されました。その後、中国東北部へ配属された後、第7師団歩兵第28連隊の中隊長としてノモンハン事件の戦場へ赴きましたが、1939年8月24日にホロン

バイルで肉弾突撃を敢行し、右腕を敵弾により撃たれ負傷をいたしました。しかし、自らの傷の手当てよりも他の兵士の手当てを優先するよう衛生兵に告げ、立ち上がった瞬間に敵からの弾丸で頭部を撃たれ、23歳で戦場に倒れました。(死後、大尉に昇進)。その後、長男を亡くした稲井の後藤家は、家を継ぐ者がおらず、両親の代をもって家が途絶えました。

この話は、私が高校3年生の夏休みに石巻市・北村にある私設平和資料館を訪れた際に、同館長の佐々木慶一郎氏(元女川高校校長)から伺いました。

私は後藤氏の話を聞いたとき、戦争とはいかに悲惨で辛いものなのかを改めて感じました。以前から戦争関連のことなどに興味がありましたので、たくさん勉強をしておりましたが、それらはどこか遠い昔の遠い場所での話に感じられ、あくまでも本や教科書の中の歴史の1ページとしての認識でありました。しかし、時代背景は異なるものの、私と同じ鰐陵の地で、友と笑い合い、汗を流し、時に



入間市の狭山茶畑を視察

は涙を流しながら5年間の青春の日々を送った先輩が、遠い異国の戦地へ赴き、愛する家族がいる祖国・日本のために、その身をもって勇敢に戦っておられた事実を知り、私はなんとも言えない思いになりました。『英霊』としてはもちろんのこと、ひとりの先輩として、感謝の念に堪えません。校歌の一節、『としえの平和祈りて』、この思いを新たにしました。

現在、私は大学に通いながらも、日々お世話になってる地域のために、様々な地域貢献活動をさせていただいております。特に、居住する入間市においては、『市総合計画審議会』の委員を、大学のある飯能市においては、『市男女共同参画審議会』の委員を、それぞれの市長から任命

特集3 母校は今

難波校長、二階堂事務局長との鼎談

【鼎談日】2026年3月11日

東京鰐陵会会長 伊藤純一（43回生）

いただき、学生ながら務めさせていただいております。また、愛する故郷・石巻市でも、『湊・鹿妻まちづくり協議会』の一員として、今でも活動をしております。これらのご縁を活かして、各界で活躍する先輩方に負けぬよう、しっかりとこれからも励んでまいります。

所存であります。さらには、若い会員として、東京鰐陵会をより一層盛り上げていくため、関東に在住する同級生に声をかけ、コミュニティの拡大を図っていきたいと思います。今後とも、ご指導ご鞭撻のほどよろしく願います。

る鼎談である。

「2018年以来的のベスト8」と「石巻かほく」に載っていた。高校野球の予選が始まると、全国紙やネットで石巻高校の名前を確認する。惜しくも準決勝には進めなかったが、勝ち進むと胸の中に沸々と何かが湧いてくる。母校に對する思いには、やはり特別なものがある。

その母校を、今年の「3・11」に訪問した。卒業式を終えたとはいえ、年度末を控えた忙しい中、日程を調整していただいた。石巻高校の校長先生、鰐陵同窓会事務局長、そして私（伊藤）の3人によ

校長 難波智昭

矢本第一中学校出身（57回生）

事務局長 二階堂守宏

鹿又中学校出身 石巻高校教員（57回生）

会長 伊藤純一

飯野川中学校出身（43回生）

「鎮魂の日」に—3・11の記憶—

伊藤 妹と姪は大川小の近くに住んでいたもので、残念な運命になりました。姪は石女（好文館）を卒業したその月でした。航空自衛隊の山口に

行くことに決まっていたんですね……。

二階堂 ○○さん（姪の名前）。

伊藤 ご存じでしたか！

二階堂 バレー部ですよ。実は私、その少し前まで好文館高校にいましたので。

伊藤 そうなんです。お世話になりました。まあ、やつと4、5年前から、感情を高ぶらせずに話せるようになりました。ところで、今日は、授業はないんですか？

難波 宮城県では「みやぎ鎮魂の日」で、学校は休みなんです。いろいろな慰霊祭があるので、授業を行うというより、その日は休みにして、そちらに参加できるようにしています。14時46分になれば黙祷します。

伊藤 15年前のこの日、お二人はどこにいらっしゃったんですか？

難波 私は仙台東高校という海沿いの学校にいました。仙



校長先生 執務中

台東高校は海側に高速道路があり、それが防潮堤の役割を果たしたため学校自体は守られたものの、周辺地域は大きな被害を受け、避難対応に追われていました。

伊藤 二階堂先生は？

二階堂 私は涌谷高校にいました。そのとき、生徒たちは家庭学習期間で、部活動で来ている生徒もいたんですが、交通手段がなくなってしまうので、教員が手分けして全員を家まで送り、解散しました。

難波 私は道路ももう駄目になっていて、1か月ぐらい学校に行けなかったんです。よ。当時の校長に連絡したら「来られるようになったら来い」と。その後、高速バスが

動き出したので、それに乗って行くんですけど、仙台駅で次のバスに乗り換えて。泥長靴を履いてね。

伊藤 私は3日目か4日目に、東北自動車道がもう駄目だったので、日本海側から山形を回って来ました。途中から通行止めで入れなかったんですけど、「家族を探しに行くから」と事情を話して。それで大川小まで行ったら、手前の堤防がそっくりなくなっていて、片方の橋も流されていました。すごかったですね。それから毎週来ていました。

二階堂 でも、毎週って大変だったんでしょう？

伊藤 全然疲れませんでした。半年くらい、ずっと興奮状態



校長室前 伊藤会長

だったみたいです。自分では分からないですもんね。家族もみんな緊張状態だから、誰も違和感を感じなくて。それだけ、ものすごいショックだったということは確かですよ。

そういえば思い出しました。石高の艇庫が流されて駄目になった、ボートもなくなった、という話が聞こえてきて。友人の伝手で茨城の霞ヶ浦高校にお願したら、ちょうど新しい艇に替える時期で、譲ってもらえるボートがあったんです。それをトラックに載せて運んできて、寄付させてもらいました。

復興の現状―高校の変化―

あれから15年が経ち、復興はだいぶ進んだように見える。その一方で、今年5月初旬、「石巻高 定員40人減」という記事が「石巻かほく」に載った。来年度の新入生は5学級200人となる。

同じ頃、「石巻地方の小中学生数がともに減少」という記事も掲載された。石巻地方2市1町の小学1年生は1,033人。39校を合わせての

人数である。この15年間における石巻地方の人口減少は深刻だ。

伊藤 私は飯野川出身なのですが、石巻地区の高校は、飯野川高校が石巻北高校の分校になりましたけれど、あとはほとんど残っていますか？

難波 3・11の影響を受けたところはありますけれども、抜本的な統廃合というのは行っていないので。

伊藤 今の統廃合のイメージって、昔ほど悲惨なものではなくて、反対するというよりは、むしろ、まとまった新しい学校をどうやってつくろうかという、プラスのイメージが強いように思うんですけど。

難波 石巻地区には東松島市も入るのですが、東松島市には昔の矢本高校と石巻西高校があります。矢本高校は東松島高校に変わって、単位制になったんです。

伊藤 三部制ですか？

難波 そうですね。昼間定時

制のような形です。

伊藤 女川も入っているんですね。

難波 女川もですね。女川高校が今、女川高等学園という特別支援学校に変わったんですけど。

伊藤 そうなんですか。全寮制ですね。

難波 全寮制の支援学校です。高等部という位置づけですね。

伊藤 なるほど。ということ、は、私学に流れるという傾向は、あまりないんですか？

難波 大きくはないです。ただ、東北学院高校が街中から仙石線沿いに移転して敷地が大きくなり、共学になったので、そこはちょっと怖いですね。ナンバースクールの滑り止めとして、やっぱり存在感が大きいんですよ。だから石巻からも流れています。

伊藤 スポーツはどうでしょうね？

難波 育英や東北ですね。スポーツ系で進学する生徒は多いです。ほかの私学も生き残りがかかっているんで、スポーツ系でどんどん取られてるのが正直なところですね。

伊藤 いや、これは大変ですね。

難波 それで、うちの学校はずっと6クラスで来たんですけど、いよいよ5クラスになっていくだろうと。この地区の普通高校には、石巻高校、石巻好文館高校、石巻西高校があります。入試倍率は西高が1倍なんですけど、4クラスなんです。4クラスで1倍ある。好文館（石女）は、うちと同じくらいの0・8倍台です。好文館（石女）は5クラス、石高は6クラス。ただ、令和に入ってからずっと定員割れ



二階堂事務局長



二階堂事務局長と難波校長

伊藤 三高が伸びたという話

難波 私たちの頃は学区制がありました。それが撤廃されて、結局、仙台一極集中になってしまつて。古川から新幹線通学する子もいます。仙台一高、二高は分かるんですけど、理数科ができた仙台三高もすごく人気なんです。

伊藤 そうすると、宮城県全体でも0・9倍程度。そういう中で、石高の状況を、東京鰐陵会の皆さんも心配されていますが。

しているという状況です。これはもう少子化が大きな原因で、うちが頑張っていないとか、そういうことではないんです。

は聞こえてきます。

難波 ちょうどいい感じの共学校で、勢いもあつて、「三高に抜かれている」という状況ですかね。あと、どうしても医学部などを狙う子は仙台へ、という話も聞きます。そうした中で、去年の卒業生が東北大医学部に現役で2人合格したので、「石高でもできるよ」ということをアピールできて、少し歯止めがかかったのではないかと思っています。

難波 石巻高校の場合は、やはりナンバースクールに流れている感じはします。ただ、石高からも国公立大学に一定数は入っています。その上の層も狙える学校だというPRを、もつともつとしています。かなければならないと思っています。

石高の変化―学力の二極化―

伊藤 松戸市にも市立高校があったので、私もその設置者として、市立高校の倍率はすごく気になっていました。高校の先生方も倍率は非常に気にして、そのためのさま

ざまな努力が大変です。

だから、やっぱり定員を割るといのは、大変な思いがあるんだろうなと思います。でも、ここ何年も0・9倍台、0・8倍台という状況が続く中で、こうして学校としての質を保っているというのは、ある意味、不思議でもあります。

難波 定員内不合格者を出さないという流れがありますから、正直、学力の幅は大きくなっていて、授業の難しさは増していると思います。先生たちの努力のたまものです。

伊藤 そうですよ。ところで、昨今、世代が違つてなかなか考えが伝わらないということが増えてきていますが、今の石巻高校生はどうなんですか？

二階堂 実際に生徒たちと一緒に授業をしています。何とも言えないところもありますね。

難波 一気に変わってきているということはありませんが、じわじわと変わってきている

と感じます。先生たちが「最近はどうだよ」と以前と比較して話す中で感じるの、学力が二極化してきて、しっかり勉強する層と、そうでない層が見えてきているということです。

それぞれの家庭の状況もありますし、教育のどこに力を入れるかによって、手をかけてもらっている子とそうでない子、運動をやっている子とそうでない子など、個々の違いがはっきりしてきています。いろいろな意味で二極化してきているという状況があります。

伊藤 少子高齢化というのは、本当に影響が大きいですね。悩ましい。

難波 ただ、その中でも「石高は勉強するのが当たり前」という覚悟を持って、うちに入ってきてくれる子たちは、文武両道で部活動も頑張ってくれます。

二階堂 「当たり前のことだよ」という覚悟を持って来ている子たちは、部活動でもちゃんと結果を残してくれて

います。部活もやるし、勉強もする、ということですね。

伊藤 はい、そうですね。

詳しく話を聞くと、国公立大学を希望する生徒のほか、東北学院大学、石巻専修大学、東北工業大学、東北福祉大学、共学となった尚絅学院大学、宮城学院女子大学、専門学校など、進路の選択肢は多岐にわたり、進路指導の難しさも増しているようである。

難波 今日現在の進学状況ですが、今のところ東北大が1人です。それから、一橋大学の法学部も決まりました。

伊藤 いいですね。私たちの頃は、一橋というのはあまりなかったですね。

難波 はい、自分たちもそうですよね。頭の中に、関東の大学というのがなかなかピンとこなかったですね。あと、京都大学の文学部に合格という連絡が昨日、入ったみたいですね。正式な進学状況は、総会でお配りしている進路情報になりますが、現段階では

例年並みですかね。

共学化

伊藤 令和8年度は、共学になって21年目になりますね。共学になっての変化について伺いたいのですが、難波校長先生は共学になってから初めての石高着任ですか？

難波 いや、その前に1回着任しています。共学の1回生を卒業まで担当しました。

二階堂 私は男子校の最後の
年までいましたが、共学の時
転勤しました。

難波
私はその後、3年間い



校長室で二人

て、男子校と共学になった年から3年目つていうのを経験しました。

伊藤　なんかこう、どう変わるのかっていうのは？

難波 そうですね。2年生と3年生の男子生徒は、やはり最初は遠慮していました。女子が入ってきてきてどう扱っていいかわからない。教員側は、「男子校の今までの雰囲気を残したい。」「その伝統をそのまま活かしたい。」でも、中には、「女子が入学したんだから、やっぱり変わっていくべき」という意見もありました。そういう葛藤がごちゃごちゃあった時代なんです。

伊藤
なるほど。

難波 女子が2年目になると男子のみの学年は三分の一になるじゃないですか。そうすると、今度は男子だけの学年の3年生が遠慮しちゃう。遠慮しちゃって、どんどん女子に最初乗っ取られていくというか、毒みたいなものが抜けていったのを見て、これ大丈夫かなくなっていうのは正直あり

ました。

伊藤 あの年っていうのは宮城県全体的に共学が始まったんですよね。二階堂先生は異動されても共学ですね。

二階堂 私は石高が男子校の最後の年までいて、次の年、石女（好文館）に行きました。石高も共学の1年目だったんですけど。同じタイミングでも、好文館の場合は男子が1クラス分までいないのです。5クラスだったんですけど共学のクラスが2クラスぐらいしかなくて。

難波 ここ（石高）は、女子がもう半分来ましたからね。

伊藤 あ、そっか、受験状況によりますか？

二階堂 はい。だから好文館では、男子は多分小さくなっているしかなかったという、見ててかわいそうなところはありません。部活もないし、部活に入っても、先輩、みんな女子だし、なんかね、気の毒っていうか。見てて、かわいそうな感じがしました。

難波　ここ（石高）は本当にもう逆に乗つ取られるんじゃないかぐらいの勢いで、バーンつて来てました。男子校に入ってくる女子なので、もうそれなりの覚悟を持つて来ているということなんです。

伊藤　なるほどな。そうですね。その選択をする気質についてうか。

難波 そうそう、能力も含めて、あと親も。例えばお父さんが「石高に娘が入れるんだ」っていう、あの今までだと娘だったら石高に入れなかったんだけど、っていうなんか熱い親御さんたちも結構いました。

伊藤 石女（好文館）が共学になる年に好文館を受ける男子生徒っていうのはどんな氣質なんですか？

二階堂 いや、もう、やはり
おとなしい感じでしたかね。

共学化の年次の石高、石女
石西は連動してそれぞれの学
校文化が生まれたようだ。現
在、石高は英語力を強化して

いて、英語の授業はもちろん、オールイングリッシュ。積極的なOGが各地で活躍している。東京鰐陵会でも何人かの女性が参加しているようだが、より多くの女性が東京鰐陵会に参加してくれるようになることを期待している。

— 同窓会の役割 —

「もう一つ大きな課題がある」と難波校長先生が言う。「進学後に戻る場所が無い」と言う。結果として優秀な人材ほど外に出てしまう。人材流出、これは大きな課題である。

難波 結局、石巻に職場がないので出てしまつて戻つてこない。石巻に仕事がないっていうか、少ないってことは



売店



鰐陵文庫 石高ゆかりの作家

まだ復興自体が進んでないからだろうけど。私たちは進学校として、「勉強しよう」とか、「一生懸命やろう」とか、言うけれど、じゃあ、戻ってこれる場所があるんですか？ということ。大学に行って、その先まで勉強したことを活かせる企業さんがあるのですか？ということ。石巻市に投げかけているのが現状なんです。せっかく勉強してきたことを還元できるところがない。となると、石巻には戻らないで、仙台とか、関東とかになる。「いやいや、戻ってこいよ」ってなかなか言えない。ジレンマもあるというところが今正直なところなんです。

としか言えない。ちょっと濁すしかないんですけど。

伊藤 そこは悩みますね。

難波 話が変わりますが、一定数、あの関東の大学に行っている卒業生もいますし、今後目指す子たちもいると思います。その関東の有名大学、難関大って言われるところを目指す子たちに一年生、二年生の段階で、現地を見学させたい、ということを考えています。

伊藤 なるほど、いいですねえ。非常に良い取り組み、将来に対しての具体的なイメージが持てそうですね。

難波 東京に行って、実際に東京の先輩方や今、自分で目指して大学に行ってる学生に会って、話をちょっと聞くと、聞いていただけでもいいと思います。成績とかもある程度裏付けがある生徒をピックアップして連れて行くっていう企画を今度の鰐陵同窓会の総会とかにもかけたいと思っていますんですよ。

伊藤 その受け入れ先ですね？

難波 そう、お願いできれば。例えばあの、「関東にはこういう同窓会支部があるんだよ」「なんかあったらちょっと相談にも乗るよ」とかみたいな繋がりも大きいのかなと思います。この辺だと東北大は見学会があるんです。でも、関東となると「じゃあ、行ってこい」ってわけにもいかない。一応「難関大プロジェクト」という名称で、東京に行ったら、東京鰐陵会の方たちに何らかの形でサポートっていうか、話を聞く機会とか、まだ具体的ではないんですけど、そのなんかコラボするプランができないかなっていうことを考えています。

伊藤 東京鰐陵会の目的を親睦だけじゃなくて、「母校への支援、そういう意味合いを入れようよ」っていう提案を今しているところ。それはなぜかという、若手の理事の皆さんが「高校や卒業生にとってメリットがなかったら、誰も参加しないだろ

う」って、「もつとその高校生とのコラボとか、いろんなことをやっていかないと、その存在価値っていうのをみんなたぶん認めてくれないじゃないですか」ってそういう意見が増えているのです。今のプランとかは十分提案できるかなと思いますよ。

難波 生徒が行った時にちょっとお願いしたい。そんな面倒くさいことじゃなくて、例えば昼食を一緒にしていただくとか、会話をそこで聞くとか。

伊藤 そうですよ。なるほど。

過日、宮城県は各地域の「拠点校」を発表した。進学拠点校という内容で、石巻は石高、古川は古高とか、白石高、気仙沼高校とかピンポイントで指定して、仙台の進学校と結んで、宮城県の教育構想の中心的存在として動くことになりそうである。

伊藤 今後について、いい課題が出来ました。今日は「鎮魂の日」、年度末を控えての忙しい中、こうやって時間を取っていただいて、有り難うございました。

難波・二階堂 有り難うございました。

《会員からのお便り》近況ハガキ(各回生)

櫻田 巖(21回生)

TVのゴルフや囲碁を楽しみながら、のんびり過ごしています。(元涌谷小学校、バスケット部、ゴルフ・囲碁)

野中 浩(23回生)

黙し難き懐古の念、再三熟考して不参加決定。婚歴64年。人生終期の情景は老々介護、

調理を諦めた老婆に代わって三食の炊事。奥深き料理の道老いて未だ追究すべき道を実感しつつ鋭意努力中でございます。(旧制石巻中学校、化学部、税理士、多趣味)

石川正雄(24回生)

年相応に身体が傷んでおります。孫、ひ孫の存在が生き甲

妻です。当日の盛会を祈念致します。(旧制石巻中学校、図書部、商社、読書・音楽・麻雀・将棋)

佐藤允俊(24回生)

3月から最愛の連れ合いが要介護3になり、入浴支援と歩行器のお世話になっております。私も要支援2となり、週1回のリハビリテーションに通っています。そして主夫業です。主婦の仕事がこんなに大変だとは知りませんでした。まるで休むヒマがありません。前谷地のポン友佐藤二郎さんも奥様の病で主夫業にいらしていかるとか。「お互いに頑張ベシ」と妙な励まし合いをしています。鰐陵の亭主諸君! ゆめゆめ御連れ合いへの感謝を忘れなさんや。(旧

制石巻中学校、バレー部)

高山研造(24回生)

昨年11月、大学同窓の諸兄との山登りで転倒、頭を強打。半身不随の大怪我。この一年は、認知症の妻の同伴を兼ねて週3回のデーサービス。リハビリのお蔭でのろのろ歩きまで回復し、先月「いところ会」に出席するため帰省し、元気を貰ってきました。思えば石中、石高時代の6年間で、往復18kmを1日も休まず(1回だけ遅刻)徒歩で通学(冬季の一時期を除き)、その間に遭遇した大雨大雪との戦い、そこで学んだNever give upの精神がその後の私の人生航路における行動指針となっています。今後はボケの進行防止の一助に行っている

る自治会活動(夜間の防犯パトロールにゴルフ等々)にこれまで以上に精を出し、激変する内外の諸情勢の行末を垣間みたく、何事にも前向きに取り組み所存です。鰐陵の皆さんより何らかのアドバイス頂ければ、大変有難く存じます。石高の益々の繁栄を祈ってやみません。(旧制石巻中学校、日本道路公団・首都高速道路公団・国土交通省・不動産鑑定士、ゴルフ・ハイキング)

津田健三(25回生)

会社は3つありますが、すべて子供達に。私はいづれも取締役会長職で、毎日会社に行っています。3つの会社は、津田工業(株)、三光アルミ(株)、オオトリコーポレーションで

す。工場は関西も含めて8つあります。(二俣中学校、化粧品容器製造業・津田工業(株)、ゴルフ・囲碁)

中里祐二郎(25回生)

昨年11月に脳梗塞で半月ほど入院しました。退院後は1日3,000歩を目標に歩行訓練をしています。食事は今までと変わりなく、酒も少々味わっています。ご盛会をお祈りいたします。(住吉中学校、住友生命保険相互会社)

本木 太(26回生)

卒寿(数え年90歳)を本年2月に迎え、足腰が大分弱まりましたが意気軒高です。人生百年時代をゆつたりと、意義ある生活を送ることを望みとしています。(稲井中学

校、スポーツ鑑賞)

及川栄喜(27回生)

高齢になり外出も出来ない体になってしまいました。(矢本中学校、新聞部)

徳江 明(27回生)

毎日30分程度の散歩をしています。今年の夏は猛暑を避け外出を控えました。これから寒くなりますが、できるだけ散歩を続けるつもりです。1時間を超えるような外出は遠慮しています。老人会でのおしゃべりやカラオケを楽しんでいます。又、一人暮らしの高齢者を外から見守る活動も続けています。(石巻中学校、文芸部、カラオケ・合唱)



ウエイトリフティング部



ソフトテニス部男子



ソフトテニス部女子



陸上部



サッカー部①



サッカー部②

安倍正剛(29回生)

埼玉北部戦争展委員長※平和活動(湊中学校、卓球部、元熊谷市議会議員、グランドゴルフ)



バスケット部女子①

今井寅三郎(29回生)

JR、地下鉄等の乗り換えを考えると出るのが億劫で、普段は横浜の公園で、田、畑、山林等で昔ながらの作業で、週4〜5回のボランティアに、元気で参加しています。(須江中学校、考古学部、畑作業)

今野勝幸(29回生)

体調が良くなるよう頑張っております。(住吉中学校、バレー部)

高橋伝四郎(29回生)

海に見える丘で静かに隠遁



バスケット部女子②

生活をしています。(月浜中学校、文芸部、読書・園芸・DIY)

半澤正義(29回生)

29回生の皆サン、元気で過ごしています。私は変わらずゴルフでもグラウンドゴルフに精を出しています。その他にウォーキングを楽しんでいます。今回も欠席しますが近況報告だけはしたいと思っています。ヨロシク。(赤井中学校、ラグビー部)

守屋晃治(29回生)

独居老人です(門脇中学校、柔道部)

木村長人(30回生)

うっかり本状投函、振込みが遅れてしまいました。申し訳



バスケット部男子①

今野末治(30回生)

ありません。東京鰐陵会の増々の発展を祈念致します。

与謝野蕪村が八代將軍吉宗の享保時代、私の現住地の結城に10年ほど滞在したとのことなので、所属の「ふるさとの古文書と歴史を学ぶ会」の会報に、拙い小文を載せるべく資料を漁っています。そこで駄句一首。「日ごと増す だいいい色は からすうり」(住吉中学校、柔道部、社会保険労務士、ピアノ演奏(初級クラス受講中))

首藤光春(30回生)

12月にKADOKAWA出版社より「回想・長嶋茂雄」本を上梓、発売されます。鋭意制作中。長嶋さんへ3哀悼深し



バスケット部男子②

鈴木賀夫(30回生)

秋のペン(石巻中学校、ラグビー部、詠歌・音楽)

スポーツクラブと病院通い、体力の低下、日々感じていきます。(涌谷中学校、音楽部、放送局・技術、旅行・写真)

蜂谷國彦(30回生)

猛暑の日が長かったためか体調を崩し、なかなか回復しません。各種会合にも足が遠くなり、30回生の諸兄にも会うことがなくなり残念です。(住吉中学校、文芸部、会社役員、読書・ゴルフ)

半澤哲志(30回生)

週2回ジム通い。福島やさしい畑復興支援活動と子ども食堂へ果物を毎月一回届けていま



バレー部女子①

す。(女川中学校、バスケットボール部、元電機、スポーツ・ゴルフ)

松田勝治(30回生)

住所が変わりましたので変更をよろしく願います。まだこの年で色々忙しく動き廻って居ます。今回も出席出来ず申し訳ありません。今後共よろしく。(石巻中学校、水泳部、総合ダム企画(株)代表取締役社長)

渡辺 武(30回生)

体調不良。入退院くり返し。(中新田中学校、硬式野球部、野球観戦)

阿部 弘(31回生)

週5日スポーツジム通い、体力維持に努めています。盛会



バレー部女子②

を祈っています。(鹿又中学校、軟式野球部、住宅資材卸売)

奥山興悦(31回生)

令和7年5月、私が所属する法曹界から小冊子『三淵嘉子元裁判官とその時代展』を終えて」が刊行されました。三淵さんは令和6年のNHKの朝ドラ「虎に翼」の主人公のモデルとなった女性で、私の恩師です。冊子には私のエッセイも収録されています。私は現在、親しい仲間との句会やシニア合唱などを愉しんでいます。(住吉中学校、英語研究会、弁護士、囲碁・俳句・合唱)

北川洋三(31回生)

半病人で通院治療中ですが、



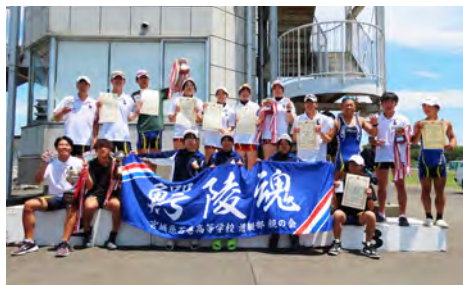
バレー部男子①



バレー部男子②



ボート部①



ボート部②



ヨット部



ワンダーフォーゲル部

毎朝、近所の公園で大勢の仲間の皆さんと太極拳を楽しんでいます。2年程前からちよっぴり昼酒を楽しみむようになり、川柳を一句詠みました。「幸せは 昼酒青空 妻の笑み」。盛会をお祈りいたします。(住吉中学校、青少年赤十字部、化学技術者・鍼灸師、太極拳・川柳)

桑島 馨(31回生)

85歳過ぎました。今バイク(自転車)で東京(葛飾柴又)から石巻に向けて走る準備中です。元気で到着したら校長室に寄って挨拶したいと思っています。到着する前に連絡します。(須江中学校、重量挙げ部、歯科医師・ラグビーメディカルメンバー・

マウスガード製作委員)

櫻井勝夫(31回生)

体調不良により欠席とさせていただきます。(鳴瀬第一中学校、不動産会社顧問、小学校柔道ボランティア、スポーツ観戦)

遠山日出夫(31回生)

会の盛況を祈念しております。(稲井中学校、柔道部、スorenスメーカー)

猪俣 斌(32回生)

視力、聴力、気力、体力、知力、財力も低下し続けております。今のところ何とか自立した日々を過ごしております。(渡波中学校、製造業、管理職、旅行・グルメ・野菜作り)

櫻井庸正(32回生)

足のふらつきがひどく歩けない。サントリローロコモア等飲んで何とか歩けるように努力中です。(涌谷中学校、囲碁・スクエアダンス)

菊池則夫(33回生)

体調不良。(住吉中学校)

木村貴則(33回生)

体を使って小まめに、家事労働を引き受けています。米寿には元気に参加することを目標としています。現在、参与を務めています。来年中には役職を返上する積りです。現役員の方々、ご苦勞様です。新役員の活躍に期待します。(住吉中学校、生徒会執行部、薩摩琵琶演奏)

山内 明(33回生)

歳相応に生活して居ります。(大谷地中学校)

明石公夫(34回生)

農園の野菜作りで汗を流し、晩酌ビールを楽しみ、ささやかな日常を過ごしております。(中津山中学校、柔道部、電気通信、カラオケ・楽器演奏・スキー・スノボ)

佐藤洋一(34回生)

卒業した門脇中学校がなくなつたと聞き、心配している。卒業生の東京の集まりがあると聞くと、連絡先を知りたい。恐縮乍らお教えいただければ幸甚です。(門脇中学校)

武山祐三(34回生)

体調が勝れず残念ながら欠席させて頂きます。盛会を祈念しております。(住吉中学校、囲碁・読書)

千葉保宗(34回生)

相変わらずひとりでです。(住吉中学校、自営業、ゴルフ)

阿部禧一(36回生)

令和7年10月に癌の手術をしたため、出席をとりやめます。(住吉中学校、税理士)

久道健三(36回生)

みな様、久しぶりに同窓会に出席します。前回は天津波のあとでした。今80歳になり、まだ現役で整体コンサルタントの仕事が続いております。



ラグビー部



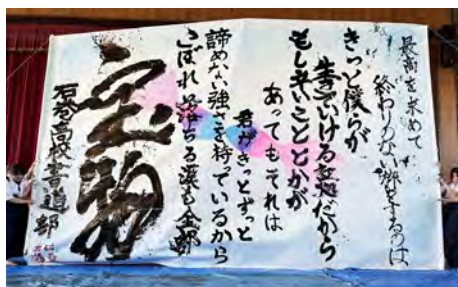
剣道部①



剣道部②



柔道部



書道部①



書道部②

今野和明(37回生)

声帯の不調で会話ができませんので欠席します。盛会を祈念します。声は出ないけど酒と週一ゴルフとお馬の運動会楽しんでいきます!! (大塩中学校、ゴルフ・お馬の運動会)

境田憲男(37回生)

家族で沖縄旅行に行き、カヌー、シュノーケリングで孫の世話になり、年齢を実感して驚きました。まだまだ元気ではないけれど…。(湊中学校、ラグビー部、港湾会社勤務、船旅・スポーツ(ゴルフ、バドミントン))

阿部盛行(38回生)

登れる灯台全国16基。この会報が届く頃は全て制覇していると思います。北は下北半島尻屋埼から南は宮古島平安名埼まで、楽に行けたのは半数にも満たないのです。登れませんが、私等の郷土にある金華山灯台は全国灯台50選に選ばれた有形文化財にも登録された著名存灯台である事を忘れないで下さい。次号には「灯りのその先へ」をお知らせしたいと思っています。(女川第一中学校、柔道部、旅行・太極拳・手話1級)

和泉耕二(38回生)

作曲活動が続いています。コンサート、是非、聴きに來てください。(住吉中学校、作曲、元音楽大学教員)

三浦 享(36回生)

11月7日に石巻へ引っ越しします! お世話になりました!(宮城野中学校、軟式テニス部、振付師)

遠藤信雄(37回生)

現役続行中です。以下近況見る! 読書に虫メガネ。聞く! 昭和のナツメロ。言う! 出て来ないのが急増中。衣! 体形はもとのまま。買わず。食

遠藤順政(37回生)

体調不良が続き、入院回数も増えて来しました。杖をたよりに歩いており、石巻帰省も出来にくくなりました。(渡波中学校)

木田 洋(37回生)

残念ですが今回は欠席します。週4日程坂の多い近所を散歩。又、年4回の町内ゴルフ会に参加で何とか元気に過ごしております。(矢本中学校、コーラス部、営業(製紙メーカー)30年・封筒メーカー10年)

浦沢良廣(38回生)

時々身体が具合悪くなりますが、現役でやっております。(門脇中学校、バスケット部、ピアノ教師・音楽教室経営、クルマに乗ってドライブ)

大林正人(38回生)

今年、弟が亡くなり、自分も最終コーナーに入ったと感じています。

熊谷明敏(38回生)

喜寿を過ぎてから、身体にいろいろ不具合が出てきました。年齢相応とは思いますが、寂しくなりますね。坐骨神経痛と医者は言うのですが両脚がしびれ歩行に難儀しております。(涌谷中学校、一年時のみ剣道部、元会社従業員)



将棋部

熊谷勝義(38回生)

喜寿を過ぎ、あとは平均余命10年全うします。(湊中学校、社会保険労務士、テニス)

熊本正義(38回生)

一生現役続行中(湊中学校、バスケットボール部、コーナン商事(株)、油絵・ハイキング・旅行)

小池 泰(38回生)

白内障の手術と重なったため今回は欠席とさせて頂きます。現在は社会福祉法人にてパート職員として働いております。(中津山中学校、ボート部、水泳)

小山慶孝(38回生)

今年5月、雄勝町大須浜の岬



新聞部



美術部

から太平洋を眺めながら、「ひんがしの海は遙かに…」と校歌を思い出しました。熱い想いは続いているようです。(石巻中学校、人文科学部、医療機器メーカー、ゴルフ・旅・読書)

福田敏夫(38回生)

現在、至誠館大学教員(教授)として、現役続行中。学生は全員外国人留学生。日本で学んで良かったという思いで卒業してもらいたい教育を実施中。(住吉中学校、陸上部、大学教員、日本拳法・少林寺拳法)

渡部正昭(38回生)

相変わらず元気で日課を楽しんでいます。(涌谷中学校、

テニス・自転車)

熊谷道夫(39回生)

同期の今野雅隆氏のお誘いで今回初参加いたします。よろしく願っています。(石巻中学校、国家公務員、ゴルフ)

今野雅隆(39回生)

10月20日(月)鰐陵39回生の「喜寿を祝う会」が松島のパレス松洲で開催(一泊二日)され、出席の予定です。何人集まるかなあ。(石巻中学校、卓球部、地方公務員)

佐々木喜藏(39回生)

出席で返信しておりましたが、地元の大事な行事が後付けで入って来まして、大変残念ですが欠席とさせていただきます。役員の皆さま、大変ご苦勞さまで。(住吉中学校、陸上部、宮城県議会議員)

佐藤泰助(39回生)

ご案内頂きありがとうございます。これまで欠席でしたが初めての参加になります。よろしく願います。故郷(石巻)を離れてから58年。職を離れ12年。かなり気ままな生

活を神奈川の地で楽しんでおります。元気です。(門脇中学校、軟式テニス部、自動車内装部品製造、相撲観戦・旅行)

立花静一(39回生)

10月末コロナにかかり、本調子に戻らず。みなさんよろしく。(石巻中学校、応援団)

阿部義治(40回生)

生涯現役めざして日々過ごしています。(住吉中学校、生物部、自営&アルバイト、登山ほか)

木村道夫(40回生)

76才、現役で働いております。体の続く限り!!(渡波中学校、柔道部、霊園経営、特になし)

渡辺総一(40回生)

すみません。出席できず。盛会をお祈りいたします。こちらは、この2年ほど版画制作にトライしていました。おかげさまで、無事注文先へ送り喜ばれました。今年夏の版画は《笑うようになる》という油絵が原画で石巻の復興を祈って描いたものでした。バンクーバーの牧師からの注文で



吹奏楽部①



吹奏楽部②



吹奏楽部③

した。また、この10月にスイスから『アドヴェント』という本が届きました。アジア、アフリカ、南米などの国々から24の美術作品がとりあげられ、クリスマスを迎える心の準備をする内容の本でした。日本からは拙絵《最も小さな者のために》という絵がとりあげられ、感謝でした。また、世界のキリスト教美術の多様性に励まされました(石巻中学校、バスケット部、絵画教室・画家、映画鑑賞)

佐々木 洋(41回生)

古稀過ぎから「楽生超寿」・「楽しんで百寿を超えるや」世代差交流・11世代を超えて交流活動を提唱してきたが、最近

は加えて「10年計画」・これから10年後の姿を予想し、70代なら85歳を、80代なら95歳を通過目標に設定し、皆様の「老いたるショック」を楽しみながら元気に通過することを提唱します。(女川第一中学校、美術部、銀行↓ジエトロ・ジャマイカ、最近はおて投稿活動)

佐藤幸男(41回生)

コロナ禍もようやく明け、趣味の旅行に励もうとしています。今年は関東近辺と福島いわき方面、そして10月地元奥松島での鰐陵41回生同期会に参加してきました。(石巻中学校、ペンフレンドクラブ、銀行員・鉄道員、旅行・合唱)

菅原新也(41回生)

俳句三昧です。「雪解水 川が光を受胎する」若水(寛岳中学校、水泳部、学校法人役員、俳句)

山形明夫(41回生)

返信葉書提出を失念していました。大変申し訳ございません。参加させていただきます。御願ひ致します。(飯野川中学校、卓球部、ホーチキ(株)会長)

鈴木卓郎(42回生)

特に大きな変化はなく、まだ現役で働いております。(大川中学校、剣道部、会社員)

村上圭司(42回生)

現在も、通信技術コンサルタ

ントとして週1〜2日働いています。総会の日は、家庭内行事のため残念ながら欠席します。盛会を祈念いたします。(住吉中学校、硬式野球部(一年生時)、電機メーカー、ゴルフ、大相撲観戦)

村田 彰(42回生)

冬に長靴で雪の中ラグビーやったり、運動会の棒たおし等なつかしいです。家が石高の隣でしたので、始業のベルを聞いてから教室へ向かう日々でした。谷口講師氏とは同じ大学なので宜しくお伝えください。現在校友会ギター部OB会の監査役を務めています。皆様へ宜しくお伝え下さい。(石巻中学校、バスケットボール部、建設業、ピアノ・ゴルフ・絵)

今藤幸一郎(43回生)

フルタイム勤務していますが、身体のあちこちに、ガタが来ています。まだまだまげませんよ(門脇中学校、人文科学部、運送会社勤務)

佐々木哲雄(43回生)

あいにく予定がありまして今回は行けません。健康が大切

と思い散歩は毎日しています。身体を動かすことを心がけています。週に1回の卓球仲間との練習をしています。卓球の他に尺八の仲間との交流が楽しみです。(飯野川中学校、卓球部、塾講師、週に1回の卓球・尺八・ドライブ)

佐藤休三(43回生)

平日は10人程の仲間と近くの森や公園で楽器演奏と歌を、休日は丹沢・箱根を中心に山歩きを楽しんでいます。(飯野川中学校、柔道部、教諭、山歩き・ウクレレ演奏)

佐藤雅洋(43回生)

2025益々の盛会を祈念いたします。石高卓球部の旧友と連絡を取り合いお互いの元気な生活に感謝しています。サックスを楽しみながら家族と楽しく生きていこうと思います。(湊中学校、卓球部、会社員(役員)、サックス)

成澤貴義(43回生)

当日仕事のため欠席いたします。盛会をお祈りしております。(雄勝中学校、会社員、ゴルフ・将棋)

高橋政昭(44回生)

1970年(高2時代)大阪万博に同級生3人で夜行電車を乗り継ぎ行きました。今年9月に妻と2人で行く事になりましたが、混雑と暑さで疲れただけでした。しかし、会場の雰囲気・様子からは将来技術の進歩の方向性を感じられ新鮮な刺激を受けました。(湊中学校、バスケットボール(途中退部)、自動車部品製造(設計、生産技術)、旅行・釣り・スポーツ鑑賞)

田 昭治(44回生)

会社の肩書きが顧問となり自由に休みが取れるので毎月のように妻と旅行しております(豊里中学校、バスケットボール部、会社員)



野球部①

平山 博(44回生)

加藤会長、長い期間の会長役、ありがとうございます。楽しく参加させていただきました。(雄勝中学校、陸上部、会社員、登山)

大山 巖(45回生)

都合により今回は参加出来ません。盛会をお祈り申し上げます。(荻浜中学校、応援部等、会社員)

庄子 茂(45回生)

心筋梗塞にて入院中の為、返信が遅れ申し訳ありませんでした。長年勤めた会社にて積算のアルバイトを続けております。(前谷地中学校、陸上競技部、設備工事業)



野球部②

津野繁利(45回生)

かろうじて生きています。(湊中学校、物理部、臨床検査技師、将棋・音楽鑑賞)

水野 茂(45回生)

今なお水産加工品作りをしています。石巻の工場と商圏の関東地方を精力的に(年齢的には目一杯です)活動しています。(湊中学校、1年間だけヨット部、水産加工業、ゴルフ・囲碁(どちらも下手ですが))

山崎義二(45回生)

そば打ちを始めました。うどんなのようなソバでも自分ですったものはおいしい!(鳴瀬第一中学校、陸上部、千葉県小学校教員)



水泳部

伊藤 隆(46回生)

今年4月より関東ラグビー協会の会長を拝命しております。この協会の管轄は、北海道・東北・関東・甲信越です。関東大学ラグビーの試合の為、総会は欠席になります。(雄勝中学校、ラグビー部、元(株)リコー、現在年金生活)

伊藤哲郎(46回生)

大変お世話になっております。11月29日開催の総会は、私事のため大阪まで行く予定なので欠席をさせて頂きます。皆様のご健康とご活躍をお祈りしています。(湊中学校、元専門学校大学教職員、現オンライン英語教室代表)



卓球部①

佐藤賢一(46回生)

まだ現役で仕事をし、厚生年金保険料も支払っています。あと5年、できれば10年、今の仕事を続けたいです。(中津山中学校・演劇部、会社役員、旅行)

三浦俊之(46回生)

千代田区九段北にて税理士をしております。(東京税理士会麹町支部所属)(住吉中学校、剣道部、税理士、読書・ウォーキング)

畠山卓弥(47回生)

土曜日も夕方まで勤務のため失礼いたします。石高の皆様のご健勝とご発展をお祈り致します。(湊中学校、卓球部、医師、ゴルフ・旅行)



卓球部②

遠藤豊明(48回生)

本年2月、塩釜に引越しました。シルバー人材センターに登録し、塩釜神社で働いています。(鮎川中学校、ワンダーフォーゲル部、ゴルフ・映画)

加藤 博(48回生)

申し訳ありませんが、今回限りで会報の送付を止めてください。引退し、静かに余生を送るつもりです。(住吉中学校、剣道部・演劇部、会社経営)

木村成一(48回生)

残念ながら都合により、当日は出席できません。皆様方のご多幸を祈念しております。(住吉中学校、陸上部、会社役員)

平塚 仁(49回生)

楽しくテニスやゴルフ、登山などを続けられるよう、小遣い稼ぎのために働いています。出勤時は必ずオフィスのある17階まで階段を利用。健康維持に努めています。(湊中学校、硬式野球部、報道、ゴルフ・テニス等)

高橋 悟(50回生)

まだ働いています。ありがたいです。(矢本第一中学校、軽音楽部、会社員、テニス・中国語)

沼館拓彰(50回生)

終活を始めました。可能な限り、一日一日を大切に心掛けております。最近周りで知人が相次いで亡くなり、健康の大切さを改めて痛感しております。(門脇中学校、新聞部、自営業(運送)、レコード鑑賞・模型作り)

久保眞治(51回生)

第32回東京鰐陵総会のご盛会を祈念しております。当日は別件の為残念ながら参加できません。大変恐縮しております。(石巻中学校、吹奏楽部、国連職員(2022年退職))

森口秀志(51回生)

介護スクール(横浜)、訪問介護事業所(川崎)を運営しています。先約があり、申し訳ありません。盛会を祈念しております。(門脇中学校、文芸部、自営業)

大内 浩(52回生)

まだまだ現役の医者です。(広瀬中学校、応援団部、クリニック理事長、浦和レッズ)

三宅正史(55回生)

定年退職後、徐々に副業のオーディオブランドを伸ばすことに注力しています。そろそろ健康(心身)にも注意を払ってと思いながらの日々です。(石巻中学校、自営・オーディオメーカー)

佐々木健至(65回生)

所用により欠席いたします。以前、石巻での鰐陵同窓会で現在の住所、連絡先をお伝えしたつもりでしたが、同窓会誌や諸々のお手紙等の送付がない状況です。通信費代等の会費もお納めしたいと思えますので、お手数をお掛けしますが、会報誌等の書類を送付いただけますと幸いです。よろしくお願いいたします。(山下中学校、軟式野球部、地方公務員、スポーツ全般)

佐藤大和(73回生)

このたび事務所を移転しました!(新住所) 170-0013 東京都豊島区東池袋

111811 Harazza

Tower 25階レイ法律事務所。今後変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます!(湊中学校、テニス部、弁護士、とくになし)

馬場珀虎(97回生)

昨年(2024年)の10月まで生徒会長を仰せつかっておりました馬場珀虎です。在学中は大変お世話になりました。大学進学に伴い埼玉県に来ま

鰐陵45回生、那須高原で「二度目の修学旅行」を敢行!

四野見喜久男(45回生)

1・はじめに**きっかけは「生存確認」**

きっかけは、昨年の東京鰐陵会の二次会でした。石巻から駆けつけた利彦君を囲み、「最近、あっちへ行ったら仲間が増えたなあ」としんみり。そこで出たのが、「生きてるうちに、もう一回みんな顔を合わせようじゃないか」という言葉でした。「ジジイになった顔に会うのは、意外と面白い。なぜか気持ちが落ち着く」そんな思いに導かれ、「那須なら宮城からも関東か

2・那須の風に吹かれて 再会の喜び

2026年4月、天皇陛下の御用邸にほど近い「ホテルエピナール那須」に、元鰐陵健児14名が集結しました。石巻からは利彦君の車に相乗りの4名(トスシコ、コダゲ、ホス、マサカヅ)、関東からは

した。今年から初めて参加させていただきます。関東に來てから、憧れの大都会東京へ気軽に行ける一方で、18年間育った故郷石巻の港町や田園風景が見られず寂しい思いでおります。これからは鰐陵の先輩方と一緒に歩んでいきたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。(湊中学校、生徒会(会長)・新聞部、学生、ピアノ・カラオケ(主に昭和歌謡))



旧図書館付近からグラウンドを眺める

私を含めたり名、(ニッタ、ホンゴ、ミズノ、ユスズ、ヤスシコ、テーキ、スノミ、ヨーズ、マヅナガ)そして遠く宝塚からもキヨスが駆けつけてくれました。阿部夫妻が事前に入念な下見をして選んでくれたこの地は、かつての修学旅行のような高揚感に満ちていました。集合写真に収まった顔ぶれは、皺の数が増え、頭の毛も少なくなっていました。眼差しはあの頃のまま。石巻のヤナギダ君からは地元の名酒「日高見」が、ヨーズ君からは焼酎2本が差し入れられ、宴の準備は万全です。

3 『宴席の風景』

時空を超えた語らい

宴会の幕が上がれば、そこはもう一瞬にして「石巻高校」の教室に逆戻りです。簡単に1分程度で近況報告(ただし、病気の話題はなし、聞いている側は質問しない)、各人の卒業後の歩みを聞き、なるほど、なるほど。マヅナガが、11年間浪人して医者になったという報告には、みな大笑い。ましてや外科。石巻高校一番のぶきつち男が外科? 話題はあっちへ飛び、こっちへ飛びの大忙し。お決まりの持病自慢から、仲間の近況報告まで、話は尽きません。医者がいると、病気の相談をしたいようで、コダゲとマヅナガの二人が、なぜか「痔の治療法」について真剣に話しています。こんな風にカッコつけず何でもさらけ出せるのが、同級生のありがたいところ。故伊藤茂君が名付けてくれた私たちの集い「おらほの会」の精神は、ここ那須でも健在でした。

「おらほ(自分たち)」の仲間だから、お世辞も気遣いもありません。半世紀という時間を飛び越え、最高の夜が更

けていきました。

4 『仲間の足跡』

それぞれの半世紀

今回、東京鰐陵会の会報でツノ君の近況を目にしました。職業欄に「臨床検査技師」とあるのを見て、高校時代に語っていた夢をそのまま形にしていることに、深い感銘を受けました。参加できなかった仲間からも多くの連絡がありました。ホス君、オーヤマ君、サンジョケーズ君、ヨスシロ君。会場には来られずとも、彼らの近況もまた私たちの酒の肴であり、大切な思い出の一部でした。

5 『おわりに』

次なる約束へ

酒の勢いも手伝ってか、宴がたけなわとなる頃には「こういう会は本当に楽しいな! 来年もヤッペー!」という声が自然と湧き上がりました。「次は宮城で開催すっぺ!」「秋保がいいんでねが!」「いや、松島でもいいんでねが!」——。そんな嬉しい喧々諤々の議論を、来年へのお楽しみ(宿題)として残し、私たちは再会を固く誓って那



懐かしいグラウンド

須を後にしました。「ジジイになった顔」を見せ合い、生存を確認し、腹の底から笑い転げた二日間。
私も、自らのモットーである「人生直球勝負」の精神で、一日一日を大切に歩んでいくと思います。今回、残念ながら参加できなかった皆さんも、次はぜひ「おらほの会」の輪に加わってください。皆さんの元気な顔に会える日を、楽しみにしています!

6 「おらほの会」ホームページ

開設のお知らせ

今回の「修学旅行」の熱気をそのままに、仲間たちがい

つでも集まれる場所として「おらほの会」のホームページを立ち上げました。ここは、私たちのデジタルな溜まり場です。下記のQRコードをスマートフォンで読み取っていただければ、すぐに入り口に繋がります。ホームページ内からは、同級生たちの近況がわかるFacebookや、日々の思いを綴ったブログなどもご覧いただけます。画面越しに、いつでも懐かしい言葉に出会いに来てください。



<https://sites.google.com/view/gakuryou45/>



旧石巻商業側グラウンドから校舎を眺める

東京鰐陵 北辰寮第一回同窓会レポート

半澤竹彦（44回生）

【参加者データ】

日程…12月4日(木)

16時30分～18時30分

集合…東京駅八重洲北口

改札前（16時15分）

場所…東京駅前

東京コトブキ店

参加者…43回生 吉田祐一・

44回生 青木良有・半澤竹彦

（旧姓大平）・45回生 四野見

喜久男・三浦洋次・長沼宏（旧

姓松永）・46回生 鈴木千賀雄・

43回生 伊藤純一（東京鰐陵会

会長・ゲスト）合計8名

【開催の背景と目的】

北辰寮出身者のつながりを



再確認し、世代を超えたネッ

トワーク形成を目的として、

第一回同窓会が開催されまし

た。コロナ禍を経て交流が途

絶えていた時期を乗り越え、

寮生同士の絆を再び深める第

一步となりました。

【当日の物語】

12月4日夕刻、東京駅八重

洲北口。改札前にはすでに青

木さん・三浦さん・千賀雄さ

んの3名が集まっていました。

宮城県に住んでいる44回生の

新保さんとは映像通話で再会

し、画面越しに伸びたひげで

冗談を交わす姿が印象的でし

た。

その後、三浦さんが44回生

の遠山さんに連絡をとり、卒

業以来の声を聞いた瞬間に胸

が熱くなる場面も。さらに松

永さん・吉田さんが合流し、

一行は会場へ向かいました。

【宴会の様子】

東京コトブキ店の個室では、

名簿配布や会費回収を進めな

がら伊藤さん・四野見さんも

合流。受付名義の伝達漏れで

四野見さんが少し困惑する一

幕があったものの、全体に和

気あいあいとした雰囲気にか

まれました。

仕事の合間を縫って43回生

の佐々木和洋さんが顔を出す

など、懐かしいつながりが随

所で蘇りました。

【思い出話と近況】

寮時代の厳しい生活リズム、

食事当番、校歌練習、黙習…。

「大平さん（現・半澤）が怖かつ

た」という話題には笑いが起

き、外科医となった松永さん

（現・長沼）の話題では「不器

用なほうが向いている」とい

う意外な視点に、皆がうなず

く場面も。

今回は「伊豆で一泊案」な

ど、今後の展望も自然と生ま

れていきました。

【二次会と名残惜しさ】

一次会後も誰一人帰ろうと

せず、自然と東京屋台へ流れ

る形に。山梨から参加してい

た松永さんは高速バスで帰路

につき、参加への熱意がうか

がえました。

【開催までの経緯】

東京鰐陵会総会に44回生の

参加が少なかったことをきつ

かけに、仲間を募りつつ運営

体制を整備。コロナ禍を経て

45回生の四野見さんが東京鰐

陵会の理事に就任したことが

転機となり、東京在住の寮生

が多いことが判明。今回の同

窓会開催へつながりました。

【今後の展望】

・次回は一泊企画も検討中

（伊豆案など）

・名簿整備および連絡網の

改善

・役割分担の明確化と

運営体制強化

【まとめ】

同じ釜の飯を食った仲間と

の時間は、年月を経ても色褪

せません。今回の再会は、北

辰寮の物語の「続き」を確か

に動かししました。今後も世代

を超えてつながりを深めてい

くきっかけとなることを願っ

ています。



48回生・65回生交流会報告

高橋俊亮（65回生）

東京鰐陵会は設立65周年を迎え、「世代を越えて集う」というテーマを掲げています。この合言葉を象徴するような交流会が、2026年2月21日、新橋で開催されました。集まったのは昭和31年生まれの48回生10名と、昭和49年生まれの我々65回生7名の計17名。年齢でいえば69歳と51歳、18歳の差こそあれ、共に「昭和の真つただ中」を石高で過ごした世代として、中身の濃い時間を過ごしました。

この集まりの端緒は、2024年の東京鰐陵会総会にあります。たまたま同卓した両回生の間で話が弾み、「また集まりたいね」という声が上がったこと。そして2025年6月の幅広い年代が集う交流会を経て、今回はその熱量を引き継ぐ形で2つの年代の交流会が実現しました。

卒業アルバムに驚いた「進取独創」の精神

宴席の途中で、48回生の先輩が卒業アルバムを見せて

くださいました。驚いたのは、なんとクラスの一割近くが今で言う「ロン毛（長髪）」でした。65回生ではクラスに一人いるかないかでしたから、明らかに先輩の方が多い印象。

聞けば、48回生が在学した昭和46年から49年は、まさに生徒会が主体となり、先生方との議論を経て「服装自由化」を勝ち取った代でした。アルバムのロン毛は単なる流行ではなく、「自分たちの手で変化を起こそう」という校訓にある「進取独創」の精神を体現していたのだと、感慨深くお話を伺いました。今、石高生の服装や髪型が自由なのは、この代の先輩方の「開拓」のお陰です。

石高を卒業して大学に進学した際、私は「石高の規模が大きくなっただけ」のような既視感を覚えたことがありました。それは石高が、大学顔負けの自由度を持ち合わせた稀な校風であり、我々はその高校生よりも3年早く、自由を「先取り」させて

もらっていたからなのだと、後になって気づかされました。

「鰐陵紳士」の品格に触れて

そもそも東京鰐陵会が65年以上開催され続けてきたこと自体、優秀な石高生が首都圏に大いに進出して活躍してきた証左。近年になって東京鰐陵会に参加した私は、その経年と規模の大きさに驚いていました。48回生の先輩方はその中でも、士業の先生や会社経営者・幹部など、社会の第一線で活躍されてきた錚々たる経歴をお持ちの方ばかり。

ですが皆さん偉ぶるそぶりなど微塵もなく、とても気さくに接してくださいました。後輩の私たちに対しては対等に議論の空気を作ってくださいさり、その語り口には「質実剛健」という軸がしっかりと通りながらもユーモアを忘れない。そんな紳士の品格、とまでは言いませんが、どこかやっぱりスマートで、過度に飾らず、なんとなくフ

ラット。「ああ石高生ってこんな感じ」という言葉にできない雰囲気、先輩方を通じて、多分自分たちの代にも連綿と受け継がれている。そしてきつと後輩たちにも。そんな気がしました。

世代を繋ぐ「鰐陵魂」

年の離れた世代と交流して初めて、自らの内にある「鰐陵魂」をメタ認知できる。それが今回の最大の収穫でした。リタイア前後の48回生に対し、65回生は現役真つただ中。次は現役世代同士でこの魂を確かめ合うのも有意義でしょうし、特定の業界テーマで集まるような横断的な試みも面白いかもしれません。

父親に近い世代の先輩方と「石高」という共通言語で語り合った新橋の夜は、東京鰐陵会が存在する意味を確かに教えてくれました。これからも世代の垣根を超えてより多くの仲間と出会えることを楽しみにしています。先輩方、本当にありがとうございました。また新橋で、あるいは職場で、そして石巻で再会しましょう。



運営資金援助協力者名簿（2026年8月31日現在）

回生	氏名	回生	氏名	回生	氏名	回生	氏名
21	櫻田 巖	34	久保 文征	40	木村 道夫	45	三浦 洋次
23	野中 浩	34	明石 公夫	40	斎藤 紀夫	45	水野 茂
24	高山 研造	34	内崎 光劼	40	高橋 憲司	45	山崎 義二
24	佐藤 允俊	34	佐々木孝三	40	平塚 善伸	45	庄子 茂
24	貝 啓	34	武山 佑三	40	萬代 玄	45	伊藤 英二
25	山下 文祥	34	阿部 千春	40	田村 隆	45	星 裕亮
25	高橋 和雄	34	佐藤 洋一	40	吉田 章	45	千葉 芳城
25	津田 健三	34	西条 修	40	渡辺 総一	46	佐藤 賢一
25	中里祐二郎	35	本木 信	40	石森 雅文	46	佐藤 浩二
26	崎野 隆三	35	星野 捷二	41	斉藤 巧	46	武田 英則
26	三宅 宗謙	36	阿部 長光	41	佐々木 洋	46	田中 昭夫
26	庄子 幸光	36	菊地 潔	41	佐藤 幸男	46	三浦 俊之
26	本木 太	36	久道 健三	41	高橋 兵一	46	三浦 義彦
27	平山 貞夫	36	大森 彬	41	沼倉 寿男	46	森田 弘志
27	吉田 貢	36	阿部 禮一	41	藤原 秀悦	46	佐々木 清
27	徳江 明	37	丹野 静也	41	宮増 秀一	46	阿部 順市
27	上原 藤三	37	境田 憲男	41	山形 明夫	46	伊藤 隆
27	及川 栄喜	37	安住 知彦	41	本田 敏雅	46	伊藤 哲郎
27	船田 清孝	37	遠藤 信雄	41	中村 雅俊	47	松川 和人
28	佐々木利勝	37	千葉 徹	41	小関 眞悦	47	畠山 卓弥
28	成澤 良	37	村井 善郎	41	遠藤 栄松	47	佐藤 敦彦
29	守屋 晃治	37	佐藤 悠	42	鈴木 卓郎	48	阿部 正行
29	高橋伝四郎	37	榊 勝一郎	42	田口 敏明	48	荒木 泰弘
29	半澤 正義	37	木田 洋	42	新田 輝夫	48	鈴木 雅芳
29	今井寅三郎	37	今野 和明	42	伊藤 信一	48	水澤 茂
30	首藤 光春	37	白鳥 隆幸	42	土屋 清治	48	明石 和彦
30	木村 長人	37	遠藤 順政	42	村上 圭司	48	木村 成一
30	松田 勝治	38	阿部 盛行	42	伊藤 輝昭	48	清水 治彦
30	今野 末治	38	荒川 憲一	43	伊藤 純一	49	平塚 仁
30	半澤 哲志	38	和泉 耕二	43	小田島孝好	49	横江 敏勝
30	渡辺 武	38	熊本 正義	43	若山 栄作	50	菅原 寿幸
30	増子 文人	38	館澤 佑	43	成澤 貴義	50	伏見 英敏
30	田中栄太郎	38	丁子 幹雄	43	佐藤 雅洋	50	高橋 悟
30	鈴木 賀夫	38	長沼 金彌	43	佐藤 休三	50	沼館 拓彰
30	畠山 尚	38	早川 誠	43	吉田 祐一	51	森口 秀志
30	蜂谷 國彦	38	福田 敏夫	43	今藤幸一郎	51	久保 眞治
31	奥山 興悦	38	渡部 正昭	43	遠藤 洋治	52	高橋 章建
31	桑島 馨	38	浦沢 良廣	44	岩崎 由次	55	谷口 大造
31	伊藤 克夫	38	熊谷 明敏	44	尾口 仁志	55	三宅 正史
31	遠山日出夫	38	小池 泰	44	高橋 政昭	56	星野 知倫
31	阿部 弘	38	小山 慶孝	44	半澤 竹彦	57	平塚 敏隆
31	櫻井 勝夫	38	大林 正人	44	平山 博	62	新田 浩
31	北川 洋三	38	船山 浩志	44	青木 良有	62	松林 尚志
32	手代木 扶	38	熊谷 勝義	44	高橋 洋	62	成家 新一
32	加藤 憲一	38	佐々木正秀	44	阿部 亨	64	阿部 悟
32	木村 久	38	安住 豊	44	赤坂 正行	64	渡邊 公威
32	猪俣 斌	39	熊谷 道夫	44	遠見 義一	65	平井 大之
32	鎌田 一郎	39	今野 雅隆	44	日野 和徳	65	大和 優雅
32	櫻井 庸正	39	佐藤 泰助	44	大森 一隆	65	大坪 智
33	木村 貴則	39	畠山 廣造	44	松野 公	67	今野 啓之
33	橋浦 武夫	39	阿部 重雄	45	阿部 利彦	70	中馬 寿規
33	堀内 文夫	39	佐藤真木男	45	楠本 潔	71	勝又 一行
33	山内 明	39	佐々木俊教	45	四野見喜久男	71	江刺 秀明
33	松川 健	40	加藤 友成	45	杉山由紀男	73	佐藤 大和
33	熊谷 正茂	40	瀬川 徹	45	長沼 宏	89	二階堂守仁
33	木村日出夫	40	阿部 義治	45	新田 裕史	90	真籠 竜大
34	千葉 保宗	40	岩崎久仁夫	45	本郷 耕基		

（敬称略）

合計227名／477,000円

2025年度 東京鰐陵会 収支報告書
自 2024年10月1日 ～ 至 2025年9月30日
東京鰐陵会 会 長 加藤 友成
会計担当 新田 輝夫

収入の部		
科 目	収入金額（円）	摘 要
前期繰越金	2,719,613	2024年10月1日現在繰越金
一般収入	協力金	246,196 理事会懇親会会費(5,500円×43名=236,500円) 運営委員からの寄付9,696円
	運営資金援助	507,000 会員からの運営資金援助
	創立100周年記念校訓パネル協賛金	784,100 石高創立100周年記念校訓パネル代協賛金
	交流会会費	147,000 会費3,500円×出席者42名
	雑収入	1,839 郵便貯金利子
	収入 小計	1,686,135
総会収入	会費	1,008,000 総会出席者112名(うち石巻から1名)
	来賓ご祝儀	27,000
	収入 小計	1,035,000
収入合計	5,440,748	(今年度収入計 2,721,135 円)

支出の部		
科 目	支出金額（円）	摘 要
一般支出	会議費	254,000 理事会懇親会費用(236,500円)、会議室使用料17,500円
	会報誌発行費	231,530 2,000部(デザイン・製作費、印刷代、諸経費)
	ホームページ維持費	14,802 サーバー利用料等
	交通費、会費、広告費	313,169 石高創立100周年特集新聞広告44,000円 記念式典参加費(会長、事務局長)81,388円 記念品贈呈式参加費(会長、事務局員)67,180円
	通信費、雑費	155,924 郵送代、メール便発送費等
	創立100周年記念品代	1,045,000 校訓パネル代 参考:収支 -260,900円)
	交流会費用	123,783 飲食代42名分 参考:収支 23,217円)
	支出 小計	2,138,208 (一般収支差額 -452,073 円)
総会支出	宴会費	955,160 宴会会場費、飲食代等
	準備費用	56,002 総会資料印刷代、メール便発送費等
	関係事務・雑費	76,996 後納ハガキ代、米寿記念品代等
	支出 小計	1,088,158 (総会収支差額 -53,158 円)
支出合計	3,226,366	(今年度収支 -505,231 円)
収 支 の 差 額		
現金	13,652	
郵便貯金	2,200,730	

上記監査の結果、正確・適正に処理されていることを認めます。

2025年10月18日
監 事 佐藤 悠 印
監 事 熊谷 勝義 印

訃報

（2026（令和8）年8月31日現在）

前回発行以降に連絡及び昨年の総会案内の返信等で、
下記のご逝去の報をお受けしました。

心からご冥福をお祈り申し上げます。鰐陵回生順、年月日は、お受け
した返信等によるご逝去の年月日です。

記

- 22回生 鈴木 善治 2024年（令和6年）逝去
- 23回生 佐藤 進 2025年（令和7年）7月25日逝去
- 25回生 安住 重則 2024年（令和6年）3月20日逝去
- 26回生 菊地 上 2024年（令和6年）逝去
- 26回生 庄子 幸光 2025年（令和7年）9月17日逝去
- 26回生 樋口 一郎 2025年（令和7年）8月31日逝去
- 27回生 稲葉 實 2025年（令和7年）10月1日逝去
- 27回生 佐々木忠夫 2025年（令和7年）7月21日逝去
- 27回生 平塚 久義 2025年（令和7年）11月逝去
- 34回生 須田 紘一 2026年（令和8年）3月1日逝去
- 34回生 武山 佑三 2026年（令和8年）6月12日逝去
- 35回生 佐藤 英武 2025年（令和7年）1月26日逝去
- 37回生 高橋 尚樹 2025年（令和7年）6月4日逝去
- 37回生 益城 秀雄 2018年（平成30年）逝去
- 40回生 佐々木 進 2025年（令和7年）8月26日逝去
- 41回生 佐々木 清 2022年（令和4年）逝去
- 45回生 伊藤 茂 2025年（令和7年）1月27日逝去

2026年 東京鰐陵会役員名簿(敬称略)

役職	回生	氏名	役職	回生	氏名	役職	回生	氏名	役職	回生	氏名	役職	回生	氏名
参 与	37	丹野 静也	理 事	29	千葉 弘二	理 事	38	和泉 耕二	理 事	48	三浦 恵朝	理 事	56	亀山 光浩
参 与	37	境田 憲男	理 事	29	今野 勝幸	理 事	38	丁子 幹雄	理 事	48	水澤 茂	理 事	56	星野 知倫
参 与	40	瀬川 徹	理 事	30	木村 長人	理 事	39	今野 雅隆	理 事	49	平塚 仁	理 事	58	浅野 剛
参 与	40	平塚 善伸	理 事	30	首藤 光春	理 事	40	阿部 義治	理 事	50	伏見 英敏	理 事	59	佐藤 昌克
監 事	37	佐藤 悠	理 事	31	奥山 興悦	理 事	40	斎藤 紀夫	理 事	51	森口 秀志	理 事	62	成家 新一
監 事	40	加藤 友成	理 事	31	桑島 馨	理 事	41	高橋 兵一	理 事	52	大内 浩	理 事	67	佐藤 祐介
会 長	43	伊藤 純一	理 事	32	小野寺義昭	理 事	41	沼倉 寿男	理 事	55	谷口 大造	理 事	71	勝又 一行
副会長 (事務局長)	43	小田島孝好	理 事	32	手代木 扶	理 事	41	山形 明夫						
副会長 (会計担当)	43	遠藤 洋治	理 事	33	木村 貴則	理 事	42	茂泉 吉則						
事務局次長	44	半澤 竹彦	理 事	33	熊谷 正茂	理 事	42	鈴木 卓郎						
事務局次長	45	四野見喜久男	理 事	34	千葉 保宗	理 事	42	田口 敏明						
事務局次長	46	森田 弘志	理 事	34	久保 文征	理 事	43	成澤 貴義						
事務局次長	46	佐々木 清	理 事	36	阿部 長光	理 事	43	吉田 祐一						
事務局次長 (会計担当)	48	鈴木 雅芳	理 事	36	菊地 潔	理 事	44	岩崎 由次						
事務局次長	65	大和 優雅	理 事	37	村井 善郎	理 事	44	尾口 仁志						
事務局次長	65	平井 大之	理 事	38	熊谷 勝義	理 事	45	新田 裕史						
事務局次長	67	笠原 秀浩	理 事	38	安住 豊	理 事	48	阿部 正行						
理 事	28	成澤 良	理 事	38	早川 誠	理 事	48	荒木 泰弘						

(敬称略)

発 行 ●東京鰐陵会(石巻高等学校同窓会東京支部)
会長 伊藤純一

発行所 ●東京鰐陵会事務所(遠藤洋治 方)
〒115-0044
東京都北区赤羽南1-11-7-603

編 集 ●東京鰐陵会編集委員会
Mail : info@gakuryou.com

【振込み口座】

●郵便振替口座番号: 00180-4-350194
加入者名: 東京鰐陵会

東京鰐陵会ホームページの案内

東京鰐陵会にホームページがあることをご存じですか。

手持ちのパソコン、スマホから見てください。

アドレスは、<https://www.gakuryou.com/>

「東京鰐陵会」で検索することでも見つけられます。

中身もコツコツと更新しておりますので、時々見てください。

トップページにある「鰐陵メール」で情報等もお寄せください。

ホームページのリニューアルの検討も進めています。(HP担当: 小田島)



【編集後記】

新しいメンバーが多く入ったことなどを踏まえ、マニュアルを再確認して、「東京鰐陵」24号の制作に取り組みました。スタートがかなり遅れたことに加えて、途中の計画変更が必要になるなどありましたが、編集委員の皆さんのスピーディーで示唆に富む働きにより、なんとか間に合ったというところでした。

特集1「東京鰐陵会総会」の報告については、会員の皆さんへの報告という意味合いを含めてのものであります。

特集2「会員と共に」については、38回生阿部盛行氏及び97回生馬場珀虎氏からの寄稿文には感謝致します。

特集3「母校は今」では石巻高校校長と同窓会事務局長のお二人と私(伊藤)の鼎談という新しい取り組みから、母校の現状を会員の皆さんに知っていただけるように工夫してみました。母校のお二人には長い時間お付き合いいただき感謝しています。そしてまた、高校生諸君のエネルギーにあふれた写真をたくさんいただきました。

会員の皆さんの関心が高い「会員からのお便り」コーナーには、今回も多く皆さんの「お知らせ」がありました。懐かしい顔を思い出してください。

編集委員として、尾口仁志氏(44回生)、半澤竹彦氏(44回生)、四野見喜久男氏(45回生)、森田弘志氏(46回生)、佐々木清氏(46回生)、阿部正行氏(48回生)、荒木泰弘氏(48回生)、鈴木雅芳氏(48回生)、大和優雅氏(65回生)、平井大之氏(65回生)、笠原秀浩氏(67回生)、小田島孝好氏(43回生)、遠藤洋治氏(43回生)の皆さんに助けられ、なんとか入稿できました。それぞれの方のご協力に感謝します。

会報誌の作成に取り組んだ半年余りを振り返りますとこれまでの先輩諸氏のご苦勞に改めて感謝致します。今後は新しい方の参加を呼びかけて、より充実した会報誌の作成に努力したいと思っております。今後ともご協力ご支援を宜しくお願いします。

(会長 伊藤純一)